

**《佐倉市総合計画策定 まちづくり懇談会》
佐倉市の新しいまちづくりに向けた提案**

平成21年9月

佐倉市企画政策課

目 次

I.	実施概要	1
1.	開催目的	1
2.	開催日程・会場	1
3.	プログラム	2
4.	参加者数	2
II.	佐倉市の新しいまちづくりに向けた提案	3
1.	課題・問題点&いいところ	3
2.	新しいまちづくりに向けた提案	5
III.	第1回検討結果「佐倉市の課題・問題点&いいところ」	11
1.	グループワーク結果の全体概要	11
2.	グループワーク結果の分野別の概要・まとめ	12
3.	アンケート調査結果の概要	31
IV.	第2回検討結果「新しいまちづくりに向けた提案」	41
1.	グループワーク結果の発表・要旨	41
2.	グループワーク結果の全体概要	48
3.	グループワーク結果の分野別の概要・まとめ	49
4.	アンケート調査結果の概要	65

佐倉市総合計画策定 まちづくり懇談会

I. 実施概要

1. 開催目的

佐倉市では、平成 21 年度から、平成 23 年度を初年度とする次期総合計画（市の将来像や、それを実現するための市政運営の指針）の策定に着手している。

この新しい計画の策定に際し、市民が市政についてどのように考え、どのようなまちづくりを望んでいるのか、市と市民との協働やまちづくりへの市民参加をどのように進めていけばよいかなどについて、市民から直接意向を確認し、構想策定と今後の市政に活かすため、市内 4 地区で「まちづくり地区懇談会」を実施した。

2. 開催日程・会場

回	会場	開催日	時間	開催場所
第1回	佐倉	平成 21 年 7 月 24 日(金)	19 時 ～21 時	佐倉市役所 社会福祉センター3F
	臼井	平成 21 年 7 月 25 日(土)	9 時 30 分 ～11 時 30 分	臼井南中学校図書室
	志津	平成 21 年 7 月 25 日(土)	14 時～16 時	志津コミュニティセンター
	根郷	平成 21 年 7 月 26 日(日)	9 時 30 分 ～11 時 30 分	根郷公民館
第2回	佐倉	平成 21 年 8 月 21 日(金)	19 時 ～21 時	佐倉市役所 社会福祉センター3F
	臼井	平成 21 年 8 月 22 日(土)	9 時 30 分 ～11 時 30 分	臼井南中学校図書室
	志津	平成 21 年 8 月 22 日(土)	14 時～16 時	志津コミュニティセンター
	根郷	平成 21 年 8 月 23 日(日)	9 時 30 分 ～11 時 30 分	根郷公民館

3. プログラム

回	項目・テーマ	備考
第1回	○開会・あいさつ ○自己紹介	—
	1. 趣旨説明「佐倉市の新しい総合計画づくりに向けて ①総合計画とは ②懇談会の開催目的	市から説明
	2. 市民意識調査結果から見るまちづくりの課題と今後の方向性	
	3. 新しいまちづくりに向けた課題・要望	グループワーク
	4. 新しいまちづくりに向けた課題・要望	
	○閉会・次回案内 (アンケート:補足・追加意見の募集)	—
第2回	○開会・あいさつ	—
	1. 第1回懇談会の振り返り(結果概要の報告) ①グループワークのまとめから ②アンケートのまとめから	市から説明
	2. グループワーク1:佐倉市の新しいまちづくりに向けた提案	
	3. グループワーク2:意見交換&提案のまとめ	グループワーク
	4. 発表	
	○閉会 (アンケート:補足・追加意見の募集)	—

4. 参加者数

地区名	第1回			第2回			合計		
	合計	うち		合計	うち		合計	うち	
		男性	女性		男性	女性		男性	女性
佐倉地区	12	8	4	13	9	4	25	17	8
臼井地区	10	8	2	9	6	3	19	14	5
志津地区	12	10	2	17	14	3	29	24	5
南部地区	10	5	5	8	5	3	18	10	8
合計	44	31	13	47	34	13	91	65	26

II. 佐倉市の新しいまちづくりに向けた提案

2回にわたるまちづくり懇談会で全4会場の参加者から出された「佐倉市のまちづくりの課題・問題点」と「まちづくりに活かすべきいいところ」及び「佐倉市の新しいまちづくりに向けた提案」について、それぞれ都市、医療・福祉、教育・歴史・文化、産業、環境・自然、市民参加・協働・行財政の6つの分野に分けて整理した。

1. 課題・問題点&いいところ

第1回のまちづくり懇談会で全4会場の参加者から出された「佐倉市のまちづくりの課題・問題点」と「まちづくりに活かすべきいいところ」を6分野に分けて整理すると以下のとおり。

(1) 都市

いいところ	<ul style="list-style-type: none"> ◇佐倉旧市街地に残る昔ながらの町並み景観。 ◇おいしい水。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ➤市内南北、JRと京成の間の連絡が悪い。市の一体感がない。 ➤高齢社会を睨み、公共施設や病院へのアクセスが容易な公共交通システムの整備。 ➤道路・公共施設のバリアフリー化。 ➤駅前・商店街に活気がない。

(2) 医療・福祉

いいところ	<ul style="list-style-type: none"> ◇総合病院が複数あり、救急医療体制も整備されている。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ➤高齢者福祉施設やヘルパーの不足。 ➤老後の不安（ビジョン・見通しが無い。一人暮らしへの不安）。 ➤元気な高齢者の活用、生きがいつくり。 ➤子どもの医療費の軽減など少子化への対応。

(3) 教育・歴史・文化

いいところ	<ul style="list-style-type: none"> ◇豊富な歴史・文化資源とそれらを学ぶ場と機会の充実。 ◇城下町、歴史のまちのイメージ。 ◇国立歴史民俗博物館の存在。 ◇市民カレッジなどの生涯学習体制や文化施設の充実。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ➤歴史・文化資源がまちづくりにうまく活かされていない。 ➤歴史・文化資源の市内外へのPR不足。

(4) 産業

いいところ	<ul style="list-style-type: none"> ◇スポーツ環境に恵まれていることと佐倉ゆかりの有名アスリートを多く輩出していること。 ◇豊かな自然を活かした四季折々のイベント。 ◇成田空港への近接性。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ➤歴史のまち・城下町のイメージが見えない。 ➤町並み保存・景観整備の方策が不明。 ➤観光客の受入態勢が整っていない（交通アクセスの不便さ、道路・観光案内の不備、大規模な休憩・飲食場所の不在など）。 ➤商店街に空き店舗が多く活気がない。魅力的な個店が少ない。 ➤農業従事者の高齢化と担い手不足から休耕田が増えている。 ➤地産地消の取り組みが弱い。 ➤若者の就業の場が少ない。 ➤地場産業が弱い。

(5) 環境・自然

いいところ	<ul style="list-style-type: none"> ◇印旛沼周辺を中心とする緑豊かな自然と田園風景。 ◇きれいな水。 ◇佐倉城址公園をはじめとする公園の充実度。 ◇散歩道・ウォーキングコースがたくさんある。 ◇ゴミの分別がきちんと行われている。まちがきれい。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ➤印旛沼の浄化、水質改善、環境保全。 ➤都市開発による緑地の減少。 ➤休耕田がゴミ捨て場になっている。 ➤地球温暖化防止への取り組みが不十分。

(6) 市民参加・協働・行財政

いいところ	<ul style="list-style-type: none"> ◇行政において市民の声を聞く機会が増えた。 ◇市民カレッジなど市民の学習意欲が高い。
課題・問題点	<ul style="list-style-type: none"> ➤まちづくりに対する市民の意識が低い。 ➤市民活動団体・NPOの連携や横のつながりが弱い。 ➤シルバー世代の活用・活躍の場・機会が不十分。 ➤新旧住民、南北地区の住民の意識の違い・温度差・交流不足。 ➤市の財政状況がわかり難い。

2. 新しいまちづくりに向けた提案

第1回のまちづくり懇談会で全4会場の参加者から出された「佐倉市の新しいまちづくりに向けた提案」について、共通の主旨・視点により分類・整理した。

提案数が最も多いのは、「市民参加・協働の視点」で8件、次いで「佐倉の強み(自然と歴史・文化・スポーツ)を活かす視点」が7件、「産業振興(商業・観光振興)の視点」が6件、「安心・安全の視点」が5件、「市の統一感・市民の一体感の創出の視点」が4件、「都市基盤・土地利用の視点」が3件であった。

(1) 都市基盤・土地利用の視点【提案数3件】

提案1-1. 道路・公共交通機関の改善

- ・道路については、志津霊園問題の早期解決、道路工事の振動削減、路面の全面舗装の見直し、ブロック塀の生け垣化、バリアフリー化、大型車の進入禁止などを進める。
- ・公共交通機関については、京成とJR間や成田新高速鉄道とのアクセスの改善及び京成線の臼井止まりの延伸などが望まれる。

提案1-2. 都市の再構築による市の一体感創出

- ・地域格差の是正も課題である。鹿島川を挟んでこちら側の議論をしないといけない。教育も根付かせないといけない。格差是正のためには、市域全体を巡るワンコインバス等の交通整備が必要。
- ・まちづくりにおいては都市計画がまちづくりそのものである。みどりを大切にし、都市を再構築していく。きちんとやるのが大切である。

提案1-3. 計画的な土地利用

- ・まちづくりの原点は土地利用になる。どれだけの面積があり、どれだけの人が住み、緑があり、商業・工業施設があるのか。理想を持って取り組まなければならない。

(2) 安心・安全の視点【提案数5件】

提案2-1. 安心・安全のまちづくり

- ・医療・福祉は子供からお年寄りまで多世代が住み続けられる町を目指す。防犯・防災もキーワードとなる。これらは市民協働がないと図れない。医療は充実しているけど福祉は不安定要因が残っている。

提案2-2. 子どもからお年寄りまで誰もが大切にされるまち

- ・子育てしやすい町、お年寄りも子ども人を人が大切にできる町。
- ・子育て支援で、保育サービスなどを充実させる必要があるが、親もサービスの受け手で終わりではなく、親が、子育てが楽しく、成長していく町になればよい。子供の人権を大切にすることも重要。

提案2-3. 安心して子どもを産み育てることができるまち

- ・佐倉市は、産婦人科が少ないので、子どもを産みやすい環境とすることが必要。

提案 2-4. 仲間づくり（市民同士の支え合い）

- ・介護にならないように気をつけているが、いずれそのようになった場合、国や市が面倒をみってくれる仕組みがある。しかし、歩けるおばあさんで一人暮らしとなったときなど、そういう人たちがひとりぼっちにならないようにすることが大切である。
- ・元気ならお金が使えるが、元気がなくなるとお医者さんにもいけなくなる。少し元気になったからお医者さんに行こうかということになる。精神的に落ち込んでしまう。楽しく暮らせる仲間づくりが必要。一人で困っている人が、相談したり、学べる場があれば安心できる。私の場合は、相談にのってと近所から来る。

提案 2-5. お年寄りの活用

- ・お年寄りに子どもたちの見守りなどのパトロール活動で活躍してもらおうとよい。子どもたちと触れ合うことで、お年寄り自身が元気をもらっている。

（3）佐倉の強み（自然と歴史・文化・スポーツ）を活かす視点【提案数 7 件】

提案 3-1. 佐倉の強みを活かしたまちづくり

- ・強みを生かしたまちづくりを進めるべきである。その強みとは、住環境がよいこと、歴史があること、自然環境である。
- ・まず、住環境が整備された、立派な住宅地であることをアピールし、歴史地区は徹底的に整備する。たとえば電線は地中化する。そしてまちのメインポイントとして、よそから人に来てもらう。そうすると自然にまちが活性化する。散歩道もいろいろありすぎて、よそから来たときにわかりにくい。大佐倉とか臼井城、印旛沼などにきちんと整備し、気楽に歩ける道としてよそにPRしていく必要がある。そういう積み重ねで、全体のまちのイメージをあげていくことが重要である。

提案 3-2. 佐倉市の財産の活用

- ・文化資産・文化施設、スポーツなど、観光に生かして魅力を発信していく。その際民間企業とのパートナーシップを図る。企業メセナと結びつけ、企業に協力してもらえないか。たとえば、順天堂記念館など。

提案 3-3. 文化振興によるまちづくり

- ・佐倉市には、資産がある。浦安市や船橋市はいくらお金を持っていても城下町は買えない。それをいかに活用していくかを考えると、今までの対応はあまりにもお粗末である。再発見し、整理して、どう生かすか、相当のクリエイトが求められる。
- ・ミュージアムのあるまちも活用したい。これらをつなぐと面で売り出せる。
- ・もてなしの心を育むことが求められる。来街者に佐倉とはよいところと感じてもらい、もう一度来たいと思ってもらい、誰かを連れてきたいと思ってもらい。そうやってリピーターを増やしていく。
- ・総合的に関連づけていくのが、戦略である。文化資産を生かしたまちづくりを進めていくべきである。

提案 3-4. 自然を活かす

- ・印旛沼や川を生かした観光ルートを設定する。文化施設と豊かな自然、多様な生物、風光明媚なところを結びつける。たとえば、印旛沼で若者が参加できるいかだレースをしたらおもしろい。

提案 3-5. 自然と農業によるまちづくり（花と農の恵みで多様な交流を展開）

- ・ 佐倉市の資源は何かと考えたとき、花、自然、スポーツ、花火が上げられる。これを全国にアピールしていく。
- ・ 自然と農業では、佐倉は米を始め農産物がとれるが、これらをいかにアピールしていくかが重要。道の駅を整備して、農産物のコミュニティをつくってはどうか。これにあわせて、メイドイン佐倉バーベキュー祭りを創設し、市民や市外の人を巻き込み、自然の恵みをアピールしていく。
- ・ 花によるアピールでは、桜、チューリップ、ラベンダー、ショウブ、草ぶえの丘のバラと、3月から花にまつわるイベント等をリレーしていくことができる。花リレーをアピールしていく。

提案 3-6. みどりや農業が目に見えるまちづくり

- ・ 市民農園があるが、広さは決まっており、期間も決まっていて使いづらい。自由に選べるようにしてほしい。
- ・ 農地を豊かにしていく。また、全体的にみどりを残していく。
- ・ これらを、きれいに守るためには、人手やお金が必要である。そうすると、若い人が市内で働けるようになる。

提案 3-7. 佐倉菜園都市の創造（農業体験による多様な交流）

- ・ 佐倉市への来訪者が、ただ来て帰って終わりではなく、リピーターとなって再来訪するような仕組みが重要。そのような魅力を創造していく。
- ・ 家庭菜園・市民農園などで農業観光に結びつけていく。そこに新旧住民の交流も生まれる。異世代交流にもつながっていく。農業の活性化にもなる。

（４）産業振興（商業・観光振興）の視点【提案数 6 件】

提案 4-1. 商業と観光の振興

- ・ 商店街活性化では、地産地消を生かし、対面販売の店を増やすことが重要。
- ・ 観光面では、市内観光のバスツアーを設けるとよい。ガイドは地元を知っているボランティアを活用する。

提案 4-2. 観光資源の活用

- ・ 観光資源の活用を進めるべき。印旛沼、歴博、武家屋敷などを一体管理して魅力のあるPRをしていく。そしてお金を落としてもらおう。印旛沼は、子供が泳げ、大人が釣りができるようにしたい。カミツキガメを駆除して安心して遊べるところとしたい。

提案 4-3. 観光をキーワードに

- ・ 印旛沼、歴史資源を生かす、農業、地場産業の育成、ベンチャー企業の誘致などを含め、財源確保のために。観光立市をキーワードに真剣に取り組むべきである。

提案 4-4. 観光振興と交流促進

- ・ 大型バスが入れる道の駅みたいなものをつくり、お金を落としてもらおう。もてなしの心で受け入れていく体制をつくる。チューリップまつりをもっとアピールする。
- ・ 桜のまちを目指す。鹿島川の土手に市民の協力で苗を植える。資金・労力は市民が、権利調整は市が行っていく。

提案 4-5. 産業振興と雇用の確保

- ・働く場としてIT産業を振興したらどうか。佐倉は光ファイバーの太い基幹線が入っていないが、国の負担9割で導入が可能。そしてIT産業を盛んにすべきである。
- ・観光イベント等での販売品（お菓子や野菜）に特徴がみられない。佐倉ならではの本物を販売することが大切。とってつけた変なものを売ると2度と人が来なくなる。

提案 4-6. メディアの戦略的な活用

- ・アドマチック天国や地井散歩で取り上げてもらったのにこれを観光につなげていない。フィルムコミッションなどでPRするのもよい。

(5) 市の統一感・市民の一体感の創出の視点【提案数4件】

提案 5-1. 佐倉サミットの開催

- ・様々な考えを持っている人と意見を交わす場が必要であり、佐倉サミットの開催を提案したい。長期的な視野に立ち、年代別地区別に代表者を募集する。中高生から60・70代までが長期で参加し、佐倉にどういう問題があるのか、棚卸しをして洗い出す機会があってもよい。
- ・市内は7つの地域に分けられる。この7つの地区から代表を呼んで、個々の問題を長期的、建設的に話し合う機会があってもよい。

提案 5-2. 新旧住民の交流（市民意識の一体化）

- ・鹿島川を挟んで新旧地区の結びつきがやすい。何か交流しないといけない。
- ・旧地区では農業や商業をやっていて産業振興が必要であるが、新住民はベッドタウンで安らぎとかみどりを求めている。

提案 5-3. 佐倉市の顔・シンボルづくり

- ・佐倉はどんなところと聞かれたらどう答えるのか。私はさあと答える。シンボルをつくらなければいけない。高齢者が安心して住める、高齢者と子供の交流がある、生涯健康などいろいろあるが、まとめると生涯学習宣言都市がよい。
- ・産業もまちの顔づくりには必要である。住民一人一人の顔が見える挨拶ロードをもうける。話題性のあるまち。テレビの活用も。産業では佐倉はこういうものが有名というものがない。道の駅のようなものに飾られPRできる産業おこしが必要である。

提案 5-4. 市民協働とコミュニティづくり

- ・懇談会を定例化し、市民と行政が連携をとりながら、お隣同士とも仲良くやれる、市民協働とコミュニティづくりを進めていく。

(6) 市民参加・協働の視点【提案数8件】

提案 6-1. 市民活動団体の活動に市民が参加しやすい仕組みづくり

- ・市内でいろいろ活動している知識が豊富なグループを一つにまとめ、参加しやすくし、知識を利用しやすいようにする。まとめて管理するところをつくる必要がある。

提案 6-2. 協働によるまちづくり

- ・ 佐倉市の人口は、17 万人でピークアウトするが、その中でも 65 歳以上人口が 3 万人から 5 万人に増える。
- ・ その結果、人々の収入が減り、市としての収入も減る。一方、支出は増える。
- ・ そこで、リタイアした人の力を活用していくことが、重要となる。
- ・ 今までは提供する側が市で、市民は受ける側であったが、今後は、市民が提供する側にまわる必要が出てくる。
- ・ シルバー世代、団塊の世代を活用していくことが求められる。それをコーディネートしていくのが市である。
- ・ そういうモデル地域でありたい。
- ・ シルバー世代の組織化が重要である。

提案 6-3. 市民参加のまちづくり

- ・ 市民参加のまちづくりが大前提である。平成 18・19 年頃、市民協働条例ができ、その中でまちづくり協議会が位置づけられた。これをベースにやっていくのが一番よい。そこにテーマを与えてやっていく。ここには自治会、社協、NPO など、まちづくりに関わる団体が関わっていて、構成するすべての団体で問題解決に向けて取り組める。
- ・ ただし、この仕組みが今は小学校区単位でつくることとなっているが、ユウカリを例にとると、通学圏と生活圏は異なっていて、通学圏単位で問題解決を図るのは無理である。自治会や地区社協は長年生活圏に基づいて活動してきているので、そのエリアでまちづくり協議会をやっていくのがふさわしい。そこで地域の実態に合わせて住民主体でやると解決できる。

提案 6-4. 市民参加型のまちづくり

- ・ 市民参加型のまちづくりを進める。市域の特性に応じたあるべき姿がある。それを市民参加で進める。

提案 6-5. 市民力の活用 1

- ・ 市民の力（市民力）を事業に生かす工夫が市に足りない。いろいろな提案を具体的に書いてあるので是非参考にしてほしい。
- ・ 目安箱のような仕組みを作って、常に市民の声が行政に反映できるように。市が手伝ってほしいことのボランティア募集。安心安全や道案内ボランティアの育成など。

提案 6-6. 市民力の活用 2

- ・ 団塊の世代の経験や知恵を活用していく。京成沿線（新市街地）と旧市街地の交流を進めていく。市民協働のためには挨拶運動から。

提案 6-7. 市民力の活用 3

- ・ 団塊の世代は、一線を退いていてもスキルがある。それを地域に落とし込んでもらう。市にはそういう人たちが活躍する場を提供してもらう。
- ・ 市の予算は減っていくので、市の施設や行政サービスを民間に移管・委譲していくとともに優秀な人たちを活用していく必要がある。指定管理者制度のように行政の経費を節減する仕組みがあるが、民間のノウハウや活力、サービスを活用することが重要。
- ・ 市民主体のまちづくりを進める方法としてまちづくり協議会がある。この仕組みをうまく円滑に行くようにしていくことが求められる。シルバー世代の組織化も重要。

提案 6-8. 市民と行政の信頼関係の構築

- ・ 行政からはいろいろ書類が出ているが7割の人は知らない。まちづくりを進めるためには、行政と市民の信頼関係が重要である。議会では改革委員会がでているが、市民と話し合わせる義務を持たせることが重要である。いまは信頼関係ができていない。

(7) 地球温暖化防止・環境の視点【提案数2件】

提案 7-1. 地球温暖化防止への取り組み

- ・ 地球温暖化防止だけでなく、地域の空気、水、みどりをまず守りたい。その上で、地球温暖化防止については、そういうことをやっているグループを市で広報してもらったり、市民が参加しやすい環境作りが大切である。そういう活動をPRする施設も必要ではないか。また、リサイクルで不要品をほしい人にわたる仕組みができないか。ゴミ焼却場の余熱を使ったプールもほしい。

提案 7-2. 環境都市を目指す

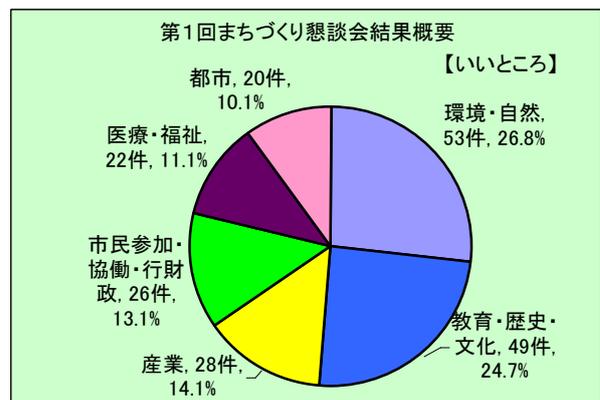
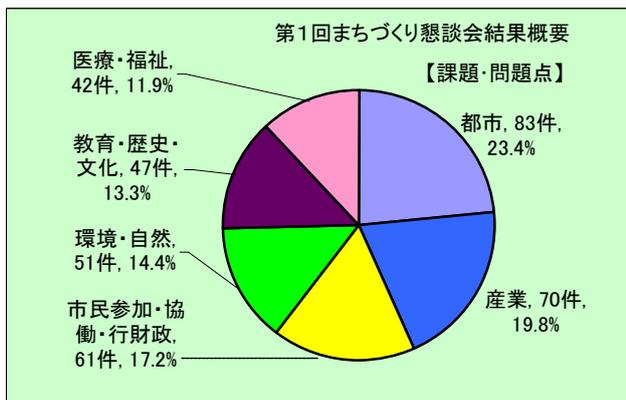
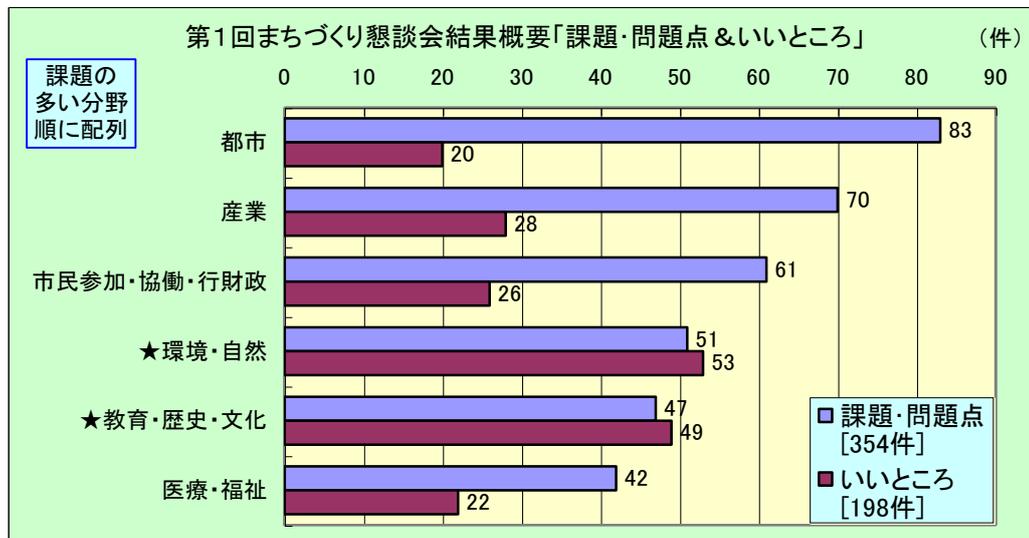
- ・ 印旛沼が一番汚い。そこで環境によい石けんを100%が使うまちにする。それを市内外に宣伝していく。きれいになれば観光につながる。まずは、市の公共施設等で率先して使用し、市民にPRしていく。使用の際は、環境にやさしい石けんであること、地球温暖化防止に対する市民一人ひとりの取り組みの重要性などの説明書きを置く。また、市内のスーパーなどにも使用をお願いしてはどうか。

III. 第1回検討結果「佐倉市の課題・問題点&いいところ」

第1回のまちづくり懇談会（グループワーク）では、まちづくりの「課題・問題点」と「いいところ」を検討していただいた。その結果を以下のとおりまとめた。

1. グループワーク結果の全体概要

- ・ 4地区合計で354件の「課題・問題点」と198件の「いいところ」が指摘された。
- ・ 「課題・問題点」では、最も指摘が多かったのは「都市」（83件）で、次いで「産業」（70件）、「市民参加・協働・行財政」（61件）などとなっている。
- ・ 「いいところ」は、「環境・自然」が53件で最も多く、次いで「教育・歴史・文化」が49件、「産業」が28件などとなっている。
- ・ 「いいところ」の方が「課題・問題点」より多かったのは、「環境・自然」（いいところ＝53件、課題・問題点＝51件）、「教育・歴史・文化」（いいところ＝49件、課題・問題点＝47件）の2分野であった。



2. グループワーク結果の分野別の概要・まとめ

分野	課題・問題点【354件】		いいところ【198件】		
	項目	件数	項目	件数	
都市	合計:	83	合計:	20	
	公共交通	19	上・下水道	6	
	歩道整備	14	防犯・防災	5	
	道路整備	12	成田空港	2	
	まちづくり	9	住宅地	2	
	駅前整備	9	公共交通	2	
	防犯	9	景観	2	
	下水道	4	環境・条件	1	
	上水道	3			
	防災	2	—	—	
	公共施設	1			
	景観	1			
	医療・福祉	合計:	42	合計:	22
		介護保険	14	医療	17
高齢者福祉		10	健康づくり	2	
健康づくり		7	地域福祉	1	
医療		6	障害者福祉	1	
障害者福祉		2	介護保険	1	
ボランティア・担い手		2	—	—	
児童福祉		1			
教育・歴史・文化	合計:	47	合計:	49	
	子育て支援	18	歴史・文化	25	
	学校教育	10	生涯学習	11	
	施設	8	子育て支援	9	
	歴史・文化	8	学校教育	3	
	人的資源の活用	1	青少年	1	
	女性	1	—	—	
	活動の場	1			
産業	合計:	70	合計:	28	
	観光	29	観光	19	
	商業	18	農業	4	
	農業	15	商業	3	
	全般	3	工業	2	
	工業	3	—	—	
	雇用	2			
環境・自然	合計:	51	合計:	53	
	自然	22	自然	40	
	環境	19	公園	7	
		公園	6		
市民参加・協働・ 行財政	合計:	61	合計:	26	
	市民参加	22	市民参加	16	
	市民意識	17	市民意識	7	
	行政運営	14	行政	3	
	財政	8	—	—	

(1) 都市

1) 課題・問題点《主な意見》

①公共交通

- ・高齢者の移動、超高齢社会を睨んだ移動手段の確保
- ・公共施設・病院へアクセスし易い公共交通システム
- ・市内南北、J Rと京成の連絡・アクセス
- ・バス便（路線バス・巡回バス）が不便

②歩道整備

- ・バリアフリー（坂道・段差がきつい、高齢者・車椅子への対応）
- ・狭い・未整備（特に通学路）

③道路整備

- ・狭く・行き止まりが多い（緊急・救急時の対応が困難。観光にも不利）
- ・分断・連絡不便（志津駅周辺、J R佐倉方面と臼井・志津・ユーカーリ方面）
- ・市の一体感の創出や協働・共同事業への支障（含：公共交通）

④駅前

- ・駅前ロータリー・商店街がさびしい・活気がない（特にJ R佐倉駅＝市の玄関口、京成臼井駅）

⑤防犯

- ・街灯が少ない（夜間暗くて不安な道が多い）
- ・防犯システム・パトロールの強化（不審者、子どもの安全）

⑥まちづくり

- ・へそがない
- ・都市（開発）と自然（保存・保全）のメリハリ・バランス
- ・旧市街地と新市街地の位置づけ、交流

2) いいところ《主な意見》

①上下水道の整備

- ・水がおいしい

②防犯・防災

- ・治安が良い。
- ・夜回り・学童信号係りなど、防犯パトロールが充実している
- ・住民の防災意識が高い

②景観

- ・佐倉の旧市街地の美しい景観

(2) 医療・福祉

1) 課題・問題点《主な意見》

①介護保険

- ・施設不足、ヘルパー不足

②高齢者福祉

- ・老後の不安（ビジョン・見通しの明示、ひとり暮らしへの不安）
- ・元気な高齢者の活用（活動・生きがいの場づくり）

③健康づくり

- ・体操・スポーツの奨励（身近な体操やスポーツの場と機会の創出）

④医療

- ・子どもの医療費の軽減、少子高齢化社会に向けた助成

2) いいところ《主な意見》

①医療

- ・総合病院が複数あり、その他病院が多く充実している
- ・救急医療、小児救急医療の体制が整備されている

(3) 教育・歴史・文化

1) 課題・問題点《主な意見》

①子育て支援

- ・子どもの数が少ない
- ・保育所・子育て支援施設が不足（保育所の待機児童が多い）
- ・子どもを安価で容易に預けることができる施設
- ・保育や教育にかかる費用が高い
- ・学校の空き教室の開放、子供向けサークルの増加

②学校教育

- ・西志津小が狭い（子どもが多すぎる）
- ・学区の見直し
- ・教育者の人材
- ・学力低下

③施設

- ・既存の公民館が狭い
- ・公民館等の習い事の会場・集会の会場が不足
- ・図書館の整備・充実

④歴史・文化

- ・ 歴史・文化関係の場所・サービスが不足
- ・ 歴史・文化関係の資源が活かされていない

2) いいところ《主な意見》

①歴史

- ・ 歴史資源が豊富
- ・ 歴史について学ぶ場と機会が豊富
- ・ 城下町のブランド、歴史の街のイメージがある
- ・ 歴博の存在価値

②生涯学習

- ・ 市民カレッジが充実している
- ・ 音楽ホールがあり、企画内容もよい
- ・ 公民館・図書館が整備されている

③子育て支援

- ・ 保育所・保育サービスが充実
- ・ 市の行事・イベントに託児サービスがついている
- ・ 子育てサロンや幼児参加プログラムが充実

(4) 産業

1) 課題・問題点《主な意見》

①観光

〈地域資源〉

- ・ 歴史の街・城下町のイメージが見えない
- ・ 街並み保存や景観整備への方策が不明
- ・ 歴史・文化資源の活かし方が下手・活かされていない
- ・ 印旛沼の自然が活かされていない

〈交通、情報発信、休憩・飲食スポット〉

- ・ 市外から来訪する観光客への交通アクセス面の配慮不足
- ・ 道路案内・観光案内・散策コース案内が不備
- ・ 観光客が休憩する場所・飲食する場所が少ない

〈誘客・PR〉

- ・ 誘客活動・PR不足

〈その他〉

- ・ 佐倉市のシンボルがほしい
- ・ 観光で収入が得られる仕組みづくり

②商業

- ・ 商店街に空き店舗が多い、活気がない
- ・ 安くて美味しいお店やオシャレなお店など、魅力ある個店が少ない

③農業

- ・ 農業従事者の減少・高齢化により元気がない
- ・ 休耕地が増え、荒れている
- ・ 地産地消の取り組みが弱い

④全体

- ・ 企業・産業が少ない。地場産業が弱い
- ・ 若者の就業の場が少ない

2) いいところ《主な意見》

①観光

- ・ 歴史と文化資源に恵まれている
- ・ スポーツ面で有名人を輩出している
- ・ 長島やマラソンだけでなく相撲でも「雷電」という力士がいる（隠れた魅力を発掘・PRする視点）
- ・ マラソンほかスポーツの環境が良い
- ・ 印旛沼周辺など自然資源が豊かで四季ごとに楽しめるイベントがある
- ・ 成田空港に近い（国際交流、外国人誘致）

②商業

- ・ 身近で便利（日用品・食料品）

③農業

- ・ 豊かな農地・農産物

(5) 環境・自然

1) 課題・問題点《主な意見》

①自然

- ・ 印旛沼の浄化・水質改善・環境保全
- ・ 印旛沼の観光集客資源としての有効活用
- ・ 開発による緑地の減少（都市開発による山林・緑地の減少）
- ・ 自然・環境保全への市民の理解促進

②環境

- ・ ゴミの分別・回収（ビン・カンのコンテナ回収・資源化促進等）
- ・ 地球温暖化防止・二酸化炭素排出削減への取り組みが不十分（太陽光等の自然エネルギーの利用、家庭へのPR・指導不足）
- ・ 農地（休耕地）が産廃の捨て場所になっている
- ・ 地下水をいつまでもきれいに

③公園

- ・ 子どもがボール遊びできる安全で広い公園が少ない
- ・ 西部自然公園の整備（自然を活かす、広い子どもの遊び場確保）

2) いいところ《主な意見》

①自然

- ・ 身近な自然・緑が豊かで、空気や水がきれい
- ・ 美しい田園風景、四季折々の自然、虫が飛び交う自然
- ・ 印旛沼周辺の自然
- ・ 散歩道・ウォーキングコースがたくさんある

②公園

- ・ 佐倉城址公園、草ぶえの丘、西部自然公園、畔田の自然、ほたるの里などの公園のほか、身近な公園も充実

③環境

- ・ ゴミの分別・回収がしっかりしており、出し手のマナーも良い
- ・ まちがきちんと清掃され、ごみがなくきれい
- ・ 環境に関心の高い市民が多い

(6) 市民参加・協働・行財政

1) 課題・問題点《主な意見》

①市民参加

- ・ 市民活動団体やNPOの横の連携・つながりが弱い
- ・ 市民公益活動に対する助成（参考：市川市・八千代市）
- ・ 市民参加や協働を形だけに終らせないための対応が必要
- ・ シルバー世代の活用・活躍の場・機会づくり
- ・ 自治会など住民自治が不活発、若手の不参加

②市民意識

- ・ 地域住民・近所の人顔が見えない、隣人関係が難しい、挨拶がない
- ・ 市民としての一体感に乏しい、新旧住民の交流不足、地区による温度差
- ・ 都会を向いている住民が多い、まちづくりに関心のある人が少ない
- ・ 市の将来に対する話題性のないまち

③行政運営

- ・ ホームページを市民がもっと見やすく、情報を引き出しやすく
- ・ ホームページだけの伝達だと無理がある

④財政

- ・ 市民に財政がわかりにくい

2) いいところ《主な意見》

①市民参加

- ・ 市民の声を聞く機会が増えた
- ・ 市民カレッジなど市民活動は盛ん
- ・ 自治会活動が盛んな地区がある
- ・ 防犯・安全対策活動の拡充

②市民意識

- ・ 市民のまちづくりに対する関心が高い
- ・ 市民カレッジなど市民の学習意欲が高い
- ・ 近所付き合いがよく、挨拶も励行

個別意見ポストイット 《まちづくりの「課題・問題点」》

グループワークで参加者から出された意見(ポストイット)をカテゴリー別に整理した。

分野・項目		課題・問題点	
都市 【83】	まちづくり 【9】	まちづくりの コンセプト	都市再生の具体的推進
			市街地の開発がデベロッパーまかせで統一性に欠ける
			特定の企業を優遇するまちづくり
			調整区域の開発が進んでしまった
			街にヘソがない
			都市計画として、市街化や再開発のメリハリをつける(保存と促進)
			佐倉市の中心市街地は現在新町周辺だが、新市街地が中心として位置づけも必要
		志津霊園	志津霊園早期移転
		その他	なかなか工事が進まず困っているところあり
	駅前整備 【9】	佐倉駅	佐倉の玄関口のJR駅側は寂しい
		臼井駅・佐倉駅	臼井駅、佐倉駅前がさびれている
		臼井駅	臼井駅北口が寂しい
		志津駅	志津駅周辺に飲食店が少ない 駅前のロータリーが狭い
		商店街	駅前商店街に活気がない
		公共施設	駅や公共施設周辺の整備
		駐車場	駅前の駐車場が少ない
		駐輪場	自転車置き場が少ない
	公共交通 【19】	交通の便全般	公共交通整備されていない
			交通の便が悪い
			高齢者で移動に困難が増えてきた
			佐倉市全体をつなぐ交通インフラの未整備
			鉄道、道路による地域分断
			海隣寺町から南図書館への足が少ない
			公共施設に行きやすい、交通システムをつくってほしい
			車がないと行動できない
		交通が不便	
		公共交通がないので高齢者、病院通いに不便	
	JR佐倉と京成線の アクセス	JR佐倉と京成線のアクセス	JR佐倉と京成線のアクセスが悪い 南北の交通不便 京成とJRとの交通アクセス不備
鉄道の便		鉄道網の整備	
バスの便		路線バスが不便	
		巡回バスの経営は無駄遣い	
	バス・交通の改善(自家用車減少)		
	バス路線網が整備されていない		
バスの便が少ない			
道路整備 【12】	狭い・行き止まり・ 連絡不備	路地・坂・狭い道が点在し、緊急時の対応が難しい	
		幹線道路が狭い	
		志津駅周辺の道路(南北の行き来)	
		道路(土地開発とからめて)	
		交通が不便、分断されている (JR佐倉、臼井、ユーカリ、志津)	
		行き止まりの道が多い	
	佐倉の街の道路が狭くて、観光に不利		
	道路の状況が悪く危険である		
渋滞	井野の交差点が渋滞している 花火大会など近くの人が渋滞に悩んでいる		
信号	信号があると便利なところあり		
通りの名前	街の通りが分かりにくい		

分野・項目		課題・問題点	
都市 【83】	歩道整備 【14】	バリアフリー	お年寄りにとって坂はきつい
			車いすが安心して通れる道路整備が悪い
			車いすでの外出が難しい
			バリアフリー道路の整備
			高齢化で歩道の段差が多い
	通学路	子どもたちの通学路をもっと安全なものに！	
		通学道路が危険性大	
	狭い	歩道が狭く危険	
		歩道が狭い	
	不十分	歩道が足りない	
		歩道の整備が不十分	
	全般	歩道橋が古く補修がなかなかされない	
		歩道の整備	
		歩きにくい	
上水道【3】	飲み水がまずくなった		
	水道代が高い		
	地下水の活用		
下水道【4】	U字溝が老朽化—町内会でうまく直させるようにしむけて(住民参加で)		
	下水道が末端まで行っていない		
	下水道の配管が上水に比べて遅れている		
	大水が出ると孤立してしまう(あふれて)		
防災【2】	市の放送(有線)が聞こえない		
	防災無線が聞きづらい。増設希望		
防犯 【9】	街灯	街灯が少なく、夜暗い	
		JR南口を出た通りが暗く、歩くのがこわい	
		夜間、大変暗い道があり、こわい	
	全般	防犯システムの充実	
		夏の暴走族の取り締まり強化	
公共施設【1】	市民(300~400人)が集まる集会場がない		
景観【1】	街並みの美化、通りの整備		
医療・福祉 【42】	健康づくり 【7】	健康診断	健康診断の有料化(高い)
		場づくり	高齢者の健康づくりをしている市民団体等に配慮を(会場を貸す等)
		体操・スポーツ	市民の集まりを上手に活かして、高齢者の健康づくりをしては?(西志津ラジオ体操)
			「スポーツのまち」になっていない
	全般	テニスコートが少なく予約出来ない(土、日)	
		家族で気軽に借りられるスポーツ施設がない	
	医療 【6】	救急医療	健康づくりへの取り組み今一歩
			医療救急体制が整っていない
		医療費	救急時の搬送、受入病院の確保
			救急車を呼んでもすぐつれてくれない
医療費(保険額)が高すぎる			
子どもの医療費の控除期間が短い			
少子高齢化に向けた助成			

分野・項目		課題・問題点		
医療・福祉 【42】	高齢者福祉 【10】	老後の不安	高齢者が急増する見通しに対する具体策が急がれる	
			将来安心して住める街への不安	
			ひとり暮らしのお年寄りが増えている	
			地域の福祉問題、老後の不安	
		元気高齢者	シルバー世代の増加を受けた活用	
		高齢者へやさしくするなら集会場を		
		災害対策	高齢者への災害対策(地震等)	
		意識	元気な年配者の集いより、故障のある人へやさしく	
	交通	病院が遠いという方に安いタクシーを		
	全般	高齢者福祉、医療		
	介護保険 【14】	施設介護	高齢者施設が少ない	
			介護を必要とする人達が入れない	
			高齢者のベッドが不足、入院できない	
			老人施設の増加	
			高齢化進み、特別介護施設少ない	
			施設介護が不足している	
		在宅介護	介護でヘルパーが不足	
		地域包括支援センター	包括支援センター無駄だ 地域包括支援センターを活かして使えるようにしてほしい	
	保険料	介護保険が高い		
	サービス不足	介護保険の足りないところ。市から出して欲しい		
	全般	介護の遅れ 高齢化が進み、独居老々介護増		
	児童福祉【1】	幼児医療(200円)が小学低学年まで上げて欲しい。できれば小学6年まで		
	障害者福祉【2】	障害者雇用が遅れている 障害者福祉がなかなか進められない		
	ボランティア・担い手【2】	簡単なボランティアをして欲しい 社協の福祉委員など、メンバーが固定・高齢化。何とかしたい		
	教育・歴史・文化 【47】	子育て支援 【18】	少子化	佐倉の出生率が1%以下(全国1.29%)
				子どもの数が少ない
子どもが少ない				
保育所			待機児童が多い	
			子育て支援施設不足(待機児童の増加)	
			駅前に保育施設を 子どもを預ける事がもっと身近にたやすく	
費用面			子育て支援策に予算が少ない	
			教育にお金がかかる	
		ベビーシッターの料金がなくて頼めない 保育料が高い		
安全		幼児・小学生が安心して遊べる環境の確保 小学生の通学路安全確保が不備		
サポート体制	子育てするための応援体制 ファミリーサポートセンター設置			
場・機会	学校の空き教室の開放が少ない 子供向けのサークル等を増やして欲しい			
全般	幼児教育、子育て支援			

分野・項目		課題・問題点			
教育・歴史・文化 【47】	学校教育 【10】	学力	学力が低い スポーツが弱い		
		規模	学校区域の見直しをして欲しい 教育(西志津小)は狭いのではないか 西志津小が過大です。なんとかして欲しい 学校が古くて耐震が心配(根郷小)		
			耐震	学校の耐震化も早く	
			安全	小学校の安全面の対策(いつでもだれでも入れる)	
		人材	校長の人柄に個人差多い 行政・教育の担当者がすぐ変わる		
		施設 【8】	公民館	習い事の会場が少ない 千代田公民館の建設 コミニケ施設集約化、建替え 志津公民館が狭い 公民館など集まる場をもっと欲しい	
	図書館			図書館がない 図書館の充実 佐倉地区に南部図書館並みの館が欲しい	
				歴史・文化 【8】	資源活用
	交通				歴史的な場所を見るためのバスを
	PR		「歴史のまち」のPRがへた		
	環境調和		都市化が進む中文化の調和がなされているか		
	人的資源の活用【1】	才能を活かせる場が少ない			
	女性【1】	働く女性に優しい街づくりを			
	活動の場【1】	若者向きライブ会場を			
	産業 【70】	全般【3】	地場産業の創出 企業が少ない 産業がない		
			雇用【2】	若い人が働くところがない 若い人の働く所が少ない	
		農業 【15】	休耕田	休耕・畑や田んぼが多い 休耕田が雑草 農業の後継者の高齢化により、農地が荒れている	
			従事者	農業従業者の減少 農業高齢化	
			有機農業	佐倉の農産物に価値を！有機農業を進めて 農薬・空中散布はやめて！	
			地産地消	地産地消の取り組みが足りない 地産地消の機会を活かしていない	
市民農園			市民農園高すぎるのでは		
交流			農業への支援(農業生産者との交流)		
全般			農業を何とかせねばならない。方針なし 農業の活性化 農業の進歩をはかる 農林水産業少ない		
			工業【3】	工業団地の企業の活性化 工業団地の活用 工業団地があるがその動きが見えない	

分野・項目		課題・問題点
商業 【18】	空き店舗	空き店舗が多い(後継者問題?)
		シャッター通りが増えている
		空き店舗の活用案を?
	活気	商工会のリーダーシップ不足
		街は華やかさに欠ける
		商店街の活気がない
		商店街の活性化
		商店街がさびれてしまっている
		旧市街の街が活気がない
	個店の魅力	客を呼べる店が集中していない
安く旨い物が食える店が少ない		
おしゃれな店が少ない		
佐倉らしい商店づくり		
買い物の便	買い物に車を使わざるを得ないので、老後の生活が心配	
商圈	八千代市、印西市等近隣市に商圈を奪われている	
名産品	佐倉の名物をつくろう	
産業 【70】 観光 【29】	歴史・文化資源の活用不足	街の景観は決してきれいとは言えない
		町並み保存への対策不明
		城下町としてのイメージが今ひとつ
		歴史の街と言われるが見えない
		歴史文化を活かしたまちづくりの具体策がない
		潜在的な文化資産をどのように活かすかコンセプトを確立されていない
		観光資源が活かされていない
		文化資産の活用が不十分
		歴史遺産・文化遺産の活かし方下手
	交通	市外から来る人達への配慮不足(駅前環境、交通面)
		花の時期にあわせたバスを
		花火、チューリップも良いが交通に問題
	標識・案内	市街地の道路案内標識が不備
		散策コースに立札が欲しい
	観光スポット・飲食店	来街者を受け入れるソフト・ハードの整備が遅れている
		観光客が食事をするところが少ない(チェーン店ではなく)
		観光客が心安らぐスポットが少ない
	誘客・PR	市の観光PRが不十分。各組織が独自に行っている
		観光アピール不足
観光客が集まらない		
若年層を呼び込む街づくりを推進できていない		
印旛沼・自然資源の有効活用	印旛沼の整備が悪い	
	印旛沼が十分に活用出来る施設を	
	佐倉の良い自然を観光に利用できていない	
シンボル	佐倉のシンボルが欲しい	
経済性の追求	観光で収入を得られるように出来ないか	
その他	日蘭交流400年の意義不明。佐倉開府400年なら理解	
	海外(成田空港)との友好促進	
	花火見物の人々のマナーが悪い	

分野・項目		課題・問題点		
環境 【19】	環境	地球温暖化	ISO14000の推進に対するレビューが市民に行き渡っていない 太陽光発電の補助がない 自然エネルギーを利用した施設が少ない 家庭への温暖化防止へのアピール(指導)がない 地球温暖化防止の実施状況が見えない	
		化学物質	農薬の空中散布をまだ行っている 公共施設で消臭剤をやめて 化学物質の取り扱い注意！周知して欲しい(公園、学校等は特に)	
		ゴミ	ゴミ分別 ビン、カンはコンテナ回収にして 公園の日常管理・除草・ゴミ拾いが不十分 ゴミのコンテナ回収をし、資源化をもっとうながすべき ゴミ分別雑芥類は粗大ゴミ扱いにしないで、集積所で集めて欲しい ゴミの分別が難しい	
		産廃	農地が産業廃棄物の処分場になっている 廃棄処理のにおいがする	
		地下水	地下水を飲み続けられる政策 地下水を大切に、将来も安心して飲めるように(価格も安く)	
		排気	排気ガスが多い	
		排水	小田急ゴルフからの排水	
		公園 【10】	子どもが遊べる安全で広い公園	公園に子どもがいない 野球、サッカーなどのグラウンドが少ない 子どもがボール遊びできる場所が少ない 孫から 広い遊び場が欲しい 子どもたちが安全で安心して遊べるところがない 遊ばせづらい公園がある 子どもたちがボール遊び出来る公園がない
	西部自然公園		公園の整備・子どもが遊べるスペースの確保・西部自然公園の整備 西部自然公園の実施 西部自然公園、人工的なものを作らず、自然を活かして	
	自然 【22】	自然	印旛沼	印旛沼の浄化に不熱心 印旛沼など広域な水原。市だけではなく課題がある 印旛沼の水質改善 沼がきたない 印旛沼の有効活用(集客) 印旛沼の活用の仕方 印旛沼へ流入する川の浄化 印旛沼の自然をもっと利用して！ 沼も川も人による汚れが目立つ 水辺が活かされていない 印旛沼が汚い 印旛沼の自然をよくし、もっと利用したら良い
			開発による緑地の減少	市街化調整区域を残す 山林の乱開発が進んでいる→山林を自然公園へ 開発によって緑が少なくなる 開発による緑地の減少 周辺の緑が少なくなった 緑が少なくなる
			谷津の保全	谷津の保全
			まちづくり	自然を生かした街づくりが出来ていない
			市民意識	旧住民と新住民の方々との自然への思いが違うのでは
			その他	下志津、畔田、谷津、都市公園にしない

分野・項目		課題・問題点	
市民参加・協働・行財政 【61】	市民参加 【22】	参加機会	市民参加も制限が多く、中々参加できない
		市民参加・協働のあり方	せっかく市民を集めるなら、活かして！何をするか事前に知らせることもできる
			市民協働が形だけで進められている
			こういう集まり、2回じゃ少ない。何も出来ずに終わるかも
		市民への働きかけ	行政はもっと市民を信じて！
			住民参加なされていない
			町内参加を促すことをして欲しい(そんなことは市がすべきとの声が大きくなった)
		市民団体・ボランティア・NPO	市民活動グループが乱立している割には、連携が行われていないため効果がない
			市民団体・NPO団体の横のつながり
			ボランティア活動がより良い環境で活動できないか
			市民団体への市民税の助成について(八千代市・市川市参考)
			学生のボランティア参加
	NPO活動が見えない		
	シルバー	ボランティア活動に参加する	
		シルバー世代のヒト的ネットワークを指導しない	
		退職者にボランティアグループ紹介を	
	住民自治	60～70代の男性の能力活用	
		行政は高齢者が少ない→高齢者の活用	
		住民自治全くなされていない	
		自治会などの地域社会の参加者が高齢である	
	市民意識 【17】	近所づきあい	自治会に頼りすぎている
			自主防災会をもっと行政として推進すべきと思う
日頃から近所の方と仲良く			
住民の一体感がない(例・七福人)			
一体感		隣人との付き合いが難しい	
		挨拶が気軽に出来る街へ	
		人の顔が見えにくい	
		市民の地域別の交流が少ない	
		佐倉としての一体感が乏しい	
		市全体の市民の交流がない	
まちづくりへの意識	南部地区と志津地区に温度差がある		
	団地と旧住民の接点がない		
	他地区への距離感がある		
将来への不安	都内(都会)を向いている住民が多い。まちづくりに関心が薄い		
	人を集めるのに苦労する		
	佐倉市に限りませんが、選挙の時の投票率が悪い		
マナー	住人のマナー向上		
財政 【8】	財政負担	調整区域の開発が進み下水道の財政的負担が増す 寺崎の開発→市の今後の財政負担の不安	
	財源	地方分権化が進む中であって市民税が減少している 市民税収の中心は現状固定資産税、都市計画税、住民税だが、事業所税等、企業協力も必要	
	全般	市の財政	
	わかりにくい	市民に財政がわかりにくい、特別会計は特にわからない、知らせる努力を	
	使途	財政というのは市民に必要なところにお金を使うものだと思います。家計と同じように考えると、無駄がたくさんありそう	
	全般	行財政全くなされていない	

分野・項目		課題・問題点		
市民参加・協働・行財政	行政運営 【14】	広報	ホームページを「市民が」もっと見やすく、情報を引き出しやすくすべき 市のお知らせがホームページによる事が多いが、伝達としてはまだ無理	
		職員	行政に市独自の政策をうちだす変わった人が少ない	
		施策	国の政策に連動して福祉サービス・教育削減	
		公共施設活用	消費者センターの活用 図書館の夜間利用を	
		助成	助成の問題	
		ビジョン	市の「まちづくり」の取り組みが見えない	
		市民の声	新公園に市民の声が届かない。委員会に排除される 審議会等、報酬なしで市民をたくさん入れるほうが良い	
		指定管理者	保育園などの指定管理者移行は慎重にして欲しい	
		議会	議会改革	
			議会の体質が古く感ずる	
市議会等傍聴してみる				

個別意見ポストイット 《まちづくりに活かすべき「いいところ」》

グループワークで参加者から出された意見(ポストイット)をカテゴリー別に整理した。

分野・項目		活かすべき「いいところ」	
都市 【20】	景観【2】	近代的街並み 佐倉旧市街は美しい	
	住宅地【2】	静かな住宅地がある ユーカリが丘駅前の整備は目覚しい	
	環境・条件【1】	まちづくりを進める上での諸条件に恵まれている(地形・位置・交通)	
	公共交通(鉄道)【2】	鉄道のアクセスが便利(京成は特急が出る、JRは総武線成田線両方出る) 都心に行くにもほどほどに便利	
	成田空港【2】	成田空港に近い 海外旅行のとき成田空港には近い	
	上・下水道 【6】	上・下水道	上下水道が整備されている
		上水道	地下水が水道水に入っている 水がおいしい 水が良い 水が美味しいのでこれを維持して欲しい
			下水道
	防犯・防災 【5】	防犯	治安は良い 夜回り、学童信号係りをボランティアで行っている(毎日でないのが欠点) 防犯パトロールが充実している
		防災	公の力より住民による防災意識が強くあり防災に熱心である 自然災害に割合強い
医療・福祉 【22】	医療 【17】	総合病院がある	市内に大学病院があり、便利 大型病院がある 総合病院が多い
		病院が多い	医療面は非常に良くなった 医療機関が充実している 病院が多い ユーカリは医院が多い(親切さが足りないところもある) 病院が多いので安心(質は良く分からないが) 医療施設が比較的充実している 病院診療所に恵まれている
	救急医療	救急医療	近くに医療機関が多くあり、緊急時は安心できる 救急医療の早期の手当てがよくなされている 医療機関の動きが早い ドクターヘリができて良かった
		小児救急医療	小児救急のシステムが整っている 小児救急施設が充実
	小児医療補助	幼児の医療費が200円で利用しやすい	
	介護保険【1】	介護保険のケアマネの対応(市の)が早くとても良いと喜ばれている	
	障害者福祉【1】	障害者福祉は充実している	
	健康づくり【2】	健康診断(OK) 散歩する道は多い	
	地域福祉【1】	近くに孫がいて心強い	

分野・項目		活かすべき「いいところ」
教育・歴史・文化 【49】	歴史・文化 【25】	郷土について学習する機会、場を多く作っている
		歴史がたくさんある町
		歴史文化資産が豊富にある
		旧城下町というブランドを持っているまち
		文化財が豊か
		歴史・特に幕末の時代
		街の中に美術館、博物館、武家屋敷等がありコンパクトに回れて便利
		歴史の街のイメージ
		歴史的建物が多い
		歴史のゆかりの地が多い
		歴史的な資源
		歴史が残っている
		佐倉は歴史が多いので自慢になる
		歴史関係の遺産が多い
		歴史と文化の共存しているエリアがある
		歴史文化の街で誇れる
		歴史資源が豊富
		遺跡、歴史的多い
		歴史ある街で見るところが多い
	歴博	国立の歴史民俗博物館がある
		歴博がある
		歴博はメジャーな文化施設である
		歴博の存在価値
		歴博 市民との交流
		国立の歴博がある
学校教育 【3】	学校が多い	
	教育の日がある	
	学校施設が充実している(根郷中、山王小)	
生涯学習 【11】	音楽ホール	市民音楽ホールの企画がよい
		音楽ホールが在る
		音楽ホールが素晴らしい
	公民館	公共施設、公民館などが各地にある
		公民館活動には満足
	図書館	図書館で、ない本を他の図書館で探してくれる
		図書館が整備されている
	市民カレッジ	市民カレッジがある
	市民カレッジが素晴らしいが増員して欲しい	
	志津大学がある	
	佐倉学を今後も広めて欲しい	
子育て支援 【9】	保育サービス	公的な保育サービスがあり素晴らしい
		市のイベントに託児所が付いている
		保育所充実(志津地区)
		市のイベントで託児室完備率が高い
	子育てサロン	子育てサロンが良い
	幼児参加プログラム	ぼっぼちゃんクラブなど幼児と参加できるものが多い
	赤ちゃん訪問	こんにちは赤ちゃん訪問とても良いです
ボランティア	学校のふれあいでボランティアとても楽しいです	
	虐待問題	虐待問題には力を入れている
青少年 【1】	若者の居場所ヤングプラザ！素晴らしい。各地に空き店舗を使って増やしたい	

分野・項目			活かすべき「いいところ」	
産業 【28】	農業	豊かな農地・農産物	野菜が美味しい 水田・畑・農産物多い	
		【4】 地産地消	学校給食等で地場農作物の利用 農作物が身近に手に入りやすい	
	工業【2】	工業団地	大工場が団地に固まっているところが良い 工業団地等あり、商用に役立っている	
	商業【3】	身近で便利	買い物は近くでそろえることが可能 買い物等も便利 買い物が便利	
			スポーツ	スポーツでビッグネームの人が佐倉から出ている 長嶋茂雄の例 相撲(雷電) マラソン マラソン環境が良い ランニング環境はとても良い スポーツ振興
	観光 【19】	歴史	歴史的な資源がたくさんある。宿内公園が残ってよかった 佐倉の歴史ストーリー—観光資源 歴史的資源、観光資源がある	
		文化	文化の香りが高い街 他市の方から、川村美術館を楽しみにしている、と	
		イベント・スポットが豊富	四季ごとにイベントがあり、楽しめる 観光できるところがたくさんある	
		自然	花と緑、公園、里山は観光資源	
		花火大会	花火大会復活	
		PR	佐倉をテレビに売り込んで	
		アクセス	地理的な場所	
		成田空港	成田空港と近い、国際化、海外交流	
		環境・自然 【53】	環境 【6】	ゴミ
	住環境			自分の住んでいる地域は住環境が良くなった
	市民の関心			環境に関心の高い市民が多い
	公園 【7】		佐倉城址公園	佐倉城址公園 子どもの遊べるスペース整備 佐倉城址公園 歴史跡 自然が一杯
			個別公園等	草ぶえの丘地域の活用の可能性 西部自然公園 畔田の自然 ほたるの里
			身近で豊富	公園が多い 小・中・高・公園等が近くにある
自然 【40】	散歩道		散歩道に事欠かない 散歩コースは沢山ある ウォーキング場所が多い	
			田園風景	田園風景がきれい 田畑が多くほっとする 家庭菜園が多い 都市と農村部(緑)が混在している 街の部分と田舎の部分がちょうどいい

分野・項目		活かすべき「いいところ」			
環境・自然 【53】	自然 【40】	印旛沼 [10]	自然が豊かで印旛沼の水辺がある 印旛沼の可能性 印旛沼周辺の緑 水辺空間 文明は水があるところから発生している 印旛沼は日本の野鳥の8割 印旛沼の自然が残っている 川・沼が多い 水辺資源がある 印旛沼周辺の自然はあのまま		
		自然・緑 [22]	自然・景観に恵まれている場所が多くある 自然がある(緑、公園、川) 身近に自然を親しめる 身近な場所で自然体験活動(宿泊を含めた)ができる 緑が多い、安らぐ 自然が豊かで気持ちが良い 自然が豊か 自然の豊かさ 緑が多い 自然も多いが環境も良い 自然が多い 緑が多い 緑が他市に比較して多い 緑が深い 空気がきれい 自然景観が多い ホタルの飛ぶ自然がある 自然が残っている 自然がいっぱい 四季折々 緑が多い 自然がたくさんある		
		市民参加・協働・行政 【26】	市民参加 【16】	協働	今回のように市民参加は良い 市は市民の声を聞くようになったと思う 根郷地区は、学校・各団体連携が良い
				市民活動	市民カレッジ等市民活動盛ん 市民カレッジの卒業生 市民活動は活発な方である 市民の独自活動がさかん 一里塚活動 女性が頑張っている
				市民団体・ボランティア・NPO	ボランティア団体の活動、スクールガードなど 地域団体がまとまっている
			住民自治	自治組織はよいが、脱退も多い 住民主権が守られている 各学校・各地区の防犯グループが増加心強い 学校と地区団体の安全対策会議が良い 自治会活動が盛んな地区がある	
			市民意識 【7】	市民意識	市民にまちづくりに対する関心が高い 市民の学習意識が高い(市民カレッジへの参加など) 行き交う人々が挨拶している 通学路を通る中学生のあいさつが気持ちよい
				近所づきあい	近所・隣りの付き合いが良い 親友がいるので心強い 近所付き合いが良い
			行政 【3】	広報	広報佐倉が良い、ホームページも良い 広報誌が頑張っている
				男女共同参画	男女共同参画条例

3. アンケート調査結果の概要

グループワークで発言・指摘した意見への補足、あるいはその後に考えついた意見などをフォローするため、グループワーク終了後に期限を決めてアンケートを実施した。

多くの参加者から多数の意見が寄せられた。それらの内容を要約し、6分野ごとに整理してまとめた。

(1) 地区または市全体の課題・改善すべき点

①都市

- ・ 自然とまちの景観、豊かな文化、厚い人情を活かした活気のある佐倉
- ・ 農業をキーワードに産直センターを核とした新旧住民・都市との交流
- ・ 市内南北を連絡する交通網の整備

②医療・福祉

- ・ 独居老人等の生活弱者の現状・ニーズの把握と組織的な対応
- ・ 子育て・高齢者・障害者への対応は、地域の人が助け合い、地域でできることは地域で取り組む。

③教育・歴史・文化

- ・ 歴史資源の活用・PR不足

④産業

- ・ 豊かな農業資源を活かし、生産者とJA、行政とが連携し、家庭菜園や市民農園を整備し、「佐倉菜園」を市のイメージとする。
- ・ 市役所と歴博がある京成佐倉駅前と商店街の活性化については、お金がなくても市民の知恵で取り組むべき。
- ・ 観光立市を標榜し、旧市街の再生、歴史と印旛沼の自然を融合したシンボルを構築すべき。

⑤環境・自然

- ・ 印旛沼の浄化と自然保護で主導的な役割を果たす。
- ・ 環境や身近な自然、里山に対する関心の高まりを施策に活かす。

⑥市民参加・協働・行財政

- ・ 行政への市民の参加意識の向上、市民と行政の協働の推進が必要。
- ・ まちづくりの理念とコンセプトの市民との共有、それを実現させるためのピラミッド型の行動計画、計画段階からの「市民力」の活用が重要。
- ・ 市民団体の運営能力を人材面、事業の計画・実施面で高める努力や団体同士の連携・ネットワークで相乗効果を発揮させる工夫が必要。
- ・ 次期総合計画の実施計画は、あるべき姿の羅列ではなく、何をいつまでにどれくらいやるという具体的な行動計画を掲載すべき。また、数値目標と優先順位、重点施策と副次的な施策の仕分けも必要。

(2) 市が重点的に取り組むべきこと、強化すべき施策

①都市

- ・高齢者の移動を考慮した公共交通機関の充実
- ・成田空港への近接性を活かした外国人にも住みやすいまちづくり
- ・いつも挨拶が飛び交う思いやりのまち、終の棲家として選ばれるまち

②医療・福祉

- ・近隣の医療施設と連携した医療体制の充実
- ・少子高齢化が自治体運営にもたらす問題への真剣な議論と積極的な対応

③教育・歴史・文化

- ・今後の日本を支える有能な子どもを育む環境づくりに重点を置くべき。
- ・保育所と老人施設の拡充面では、行政と民間、ボランティア間で連携を図る施策や条例を検討すべき。
- ・千葉県で唯一全国名城百選に選ばれた佐倉城の復元。佐倉の歴史と文化を語る上でも不可欠。
- ・歴史資源、特に縄文・弥生時代の遺跡の積極的な保全・活用

④産業

- ・人を呼ぶためのイメージづくりが必要。
- ・長嶋茂雄、雷電、マラソンをテーマとしたまちおこしへの取り組み
- ・佐倉の地域資源・魅力の統一かつ効果的な情報発信
- ・花と緑に関わる地域資源を連携させ、佐倉の花と緑の祭典としてPRする。
- ・身近な買い物利便性の高いまち
- ・成田空港への近接性を活かした先端・ハイテク企業の誘致、地産地消による農業振興、印旛沼を中心とする観光振興、城下町・国際都市としてのイメージづくりが重要。

⑤環境・自然

- ・佐倉市独自の条例制定による産業廃棄物処理への規制強化と環境保全
- ・印旛沼の再生と活用。具体的には水質改善、岸辺の整備、水辺に適した文化施設の整備、イベント開催、キャッチコピーの作成など。

⑥市民参加・協働・行財政

- ・有償ボランティアグループの組成
- ・市民講座・カレッジへの参加を通じた何でも相談できる友人づくり（心配事回収事業）
- ・税金の使途として施策の優先順位を決めることが重要。

(3) 新しいまちづくりの方向性・方策、市民参加・協働のあり方

①都市

- ・ 佐倉市は分散居住区点在型都市であり、高齢者を意識した公共交通と身近な買い物施設が主要課題。
- ・ 「子連れの若者世帯の誘致」と「住民相互扶助型コミュニティの構築」が重要。コミュニティビジネス型の福祉サービスや子ども手当、保育サービスの充実も必要。
- ・ 佐倉市は、旧佐倉市街と臼井・ユーカーが丘・志津に分かれ、鹿島川を挟んで別の都市があるような感じであり、両サイドの市民の交流が必要。
- ・ 公共施設や買い物施設を連絡するワンコイン巡回バスの運行。

②医療・福祉

- ・ 佐倉市全域で救急時の個人情報伝達方法を明確にすべき。

③産業

- ・ 従来型の駅前商店街振興の発想ではなく、高齢者の消費行動の変化を見据えた方策を講じる必要がある。
- ・ コミュニケーションがとれる対面販売の小売店の増加を望む。

④環境・自然

- ・ 今後 10 年間は地球温暖化防止で市と市民が一致団結して取り組むべき。
- ・ 市が提示する温暖化防止策を市民が実行し、その成果を定期的に広報等で公表し、優秀者を「TOP100 家」のような形で表彰するとよい。

⑤市民参加・協働・行財政

- ・ NPOや市民団体が活動しやすい環境づくりとして資金面での支援が必要。市川市の「1%支援制度」のようなものを佐倉市でも検討すべき。
- ・ 佐倉市民カレッジのメンバーは、意欲、能力、実行力とも優れており、この力を活用することで、従来できなかった諸施策やサービスを実施すべき。
- ・ 定年退職した人が、自身の経験やノウハウを活かして、あるいは、新たに学んだスキルを活かして活躍できる場づくりを進めることが重要である。
- ・ 市民人材バンクを創設し、意欲のある人たちをメンバーとして登録し、各人の経験やノウハウを有効に活用する体制・仕組みを構築すべき。
- ・ 行政には、施策や計画づくりに市民の意見を聞く制度はあるが、市民の能力・経験を上手に生かす具体的な方法にもっと工夫する必要がある。
- ・ 計画のビジョンを明確にし、対象・数値・方法・期限の必要項目を具体的に提示すべき。
- ・ 行政、民間、市民の協働と役割分担を明記しなくては、行政への依存体質から抜け出せない。
- ・ 財政に見合った計画を作成することが大事。

アンケート結果・個別意見要約

アンケートで寄せられた意見をカテゴリー別に要約・整理すると下表のとおり。

●問1：「地区または市全体の課題・改善すべき点」

分野・項目		主な意見(概要)
都市	まちづくり	自然とまちの景観、豊かな文化、厚い人情を活かした活気ある明るい佐倉の実現。
		自然と都市の共存。
		市内7地区のそれぞれの特性を活かしたまちづくり。
		南部地域では、農業をキーワードとし、産直センターを核とした新旧住民の交流が重要。
公共交通	都心へのアクセス利便性による若い世代の定住促進。	
道路	市内南北地域を連絡する交通網の整備。 志津地区の道路網の整備(狹隘で入り組んでいる)。	
医療・福祉	障害者福祉	障害者対策の充実と実行。
	地域福祉	独居老人等の生活弱者の現状・ニーズの把握と対応を組織的に行うべき。 子育て・高齢者・障害者対策として、地域の人が助け合い、地域でできることは地域で取り組むべき。地域通貨の活用も一法。 まちづくりには、足腰の弱い、病院通いをしている「元気ではない高齢者」にやさしい視点を持つべき。
	全般	今後10年は人間性の再発見・再認識をする必要あり。
教育・歴史・文化	公共施設	公共施設は無料とすべきで、民営化して有料にすべきではない。
	歴史・文化	歴史遺産の保全・PR不足(鋳物の筒型ポストや井野長割遺跡等の縄文遺跡等)。 効果の測定が必要(観光客が来てくれなければ意味がない)。
産業	農業	豊かな農業資源を活かし、農家とJA、行政とが連携し、家庭菜園や市民農園の整備を進め、「佐倉菜園」を市のイメージとすべき。
	工業	成田空港への近接性と印旛沼周辺の自然を活かした産業政策を講ずべき。
	商業	地元商店街の衰退。 市の玄関口である栄町商店街の再生。まずは景観と安全面の整備から。 市役所と歴博がある京成佐倉駅前と商店街の活性化。お金がなくても市民の知恵でよい街にすべき。 京成志津駅周辺への飲食店の誘致。
		観光
	環境・自然	自然
公園		トイレと休憩所が備わり、子どもとお年寄りが集まるような公園を目指すべき。
ゴミ		ごみの有料化はさけるべき。
市民参加・協働・行財政	市民意識	市民のマナーを向上させるべき(路上の違法駐車、自転車の歩道暴走、禁煙区域での喫煙、ごみのポイ捨てなど)。
	市民参加	行政への市民参加意識の向上、行政と市民との協働の推進が必要。 市民の新しい発想や活動を育てるため、補助金の支給も含め、既存の組織・団体へ寄りかかる計画づくりはやめるべき。 成果を出すためには、理念やコンセプトが市民と共有でき、それを実現するための行動計画がピラミッド型に形成されることが極めて重要。そのために、計画段階から実施に至まで、市民力を活かすまちづくりの推進が絶対に必要であることを認識し実行する必要がある。 多くの市民活動が、単なる自己中心で自己満足達成の行動から行われており、これを市民公益活動として社会貢献型に発達させる必要がある。 市民団体の運営能力を人材面、事業計画・実施面で高める努力や、団体同士の連携ネットワークによる相乗効果発揮の工夫が必要である。

(問 1 の続き)

分野・項目		主な意見(概要)
市民参加 ・協働 ・行財政	行政	従来のマスタープランは、行政主導型の手法で作成されており、成果が出ていない。行政の縦割主義の打破も必要。
		地域の問題は、質的にも構造的にも歴史的転換期にあり、従来の枠組みや解決方法では捉えられず、「個性的かつ斬新な発想」が求められている。真の改革のためには、行政執行制度の事後評価を伴った改革制度が不可欠である。
		市職員の削減により、一部において行政機能が低下しているため、人材の有効活用と組織機能の効率化など、総合的なバランスの確保が求められる。
		広報誌の内容については、もっと市民の声を聞き、市民サイドの情報を掲載すべき。
		次期総合計画の実施計画は、あるべき姿の羅列ではなく、何をいつまでにどれくらいやるという具体的な行動計画を掲載すべき。 また、数値目標と優先順位、重点施策と副次的な施策の仕分けも必要。
		国際都市としてあまり目立った国際交流がないので、人材育成や組織作りなど企画段階から見直すべき。
	平和宣言都市としての市の取り組みが一般市民にわからないので、目標を定め、市民を交えた積極的な取り組みをすべき。	
財政	財源確保のための政策の見直しと再編が必要。	

●問2：「市が重点的に取り組むべきこと、強化すべき施策」

分野・項目		主な意見(概要)	
都市	公共交通	高齢者の移動を考慮した公共交通機関の充実。	
		京成沿線とJR沿線の連絡、主要道路の右折車線設置、自転車専用路線と歩道の分離などが必要。	
	上水道	佐倉のおいしい水を市の財産として後世に引き継ぐべき。	
	まちづくり	成田空港への近接性を活かし、外国人に住みやすいまちづくりを目指す。	
	心の豊かさ	市民の心をより豊かにするソフト施策や楽しみを分かち合える分野の充実が望まれる。	
医療・福祉	医療	近隣の医療施設と連携した医療体制の充実が必要。 地の利を活かした医療分野での産業誘致が必要。	
	高齢者福祉	少子化・高齢化により自治体運営に新たにどのような問題が発生するかを真剣に議論し、この問題から逃げることなく対応していくことが極めて重要。	
教育・歴史・文化	子育て支援	保育園の待機児童の減少。	
		駅前保育所の整備・充実。	
今後の日本を支える有能な子どもを育む環境づくりに重点を置いた施策を優先すべき。 保育所と老人施設の拡充面では、行政と民間、ボランティア間で連携が図れるような独自の施策や条例を検討すべき。			
歴史・文化	歴史遺産、特に、弥生・縄文時代の遺跡の積極的な保全と活用が求められる。 千葉県で唯一全国名城百選に選ばれた佐倉城の復元。佐倉の歴史と文化を語る上でも不可欠であり、史実に忠実に復元すべき。		
産業	観光	人を呼ぶため、市のイメージづくりが重要。 観光面で、「長嶋茂雄」、「雷電」、「マラソン」をテーマとして事業を起こしてはどうか。 佐倉の魅力と地域資源について、商工観光、歴史・文化を担う各部署・団体・組織が連携を図り、利用者(来訪者)の視点に立った、統一的、効果的な情報発信をすべき。 佐倉市の花と緑に関わる地域資源を連携させ、花マップを作成するなど、佐倉の「花と緑の祭典」として統一的、効果的に情報発信すべき。	
		商業	中心市街地の活性化。 遠くの大型スーパーより近くの商店が重要。身近な買い物利便性の高いまちにすべき。
		全般	成田空港への近接性を活かした先端・ハイテク企業の誘致、地産地消による農業振興、印旛沼を中心とした観光振興に注力する。城下町・国際都市のイメージづくりも重要。
		環境	佐倉市独自の条例制定による、産業廃棄物処理への規制強化と環境保全。
環境・自然	自然	印旛沼の再生と活用が重要。水質改善に加え、岸辺の整備、水辺に適合した文化施設の建造、イベント開催など、印旛沼を資源とする企画を推進すべき。推進にあたっては親しみのあるキャッチコピーの設定が有効。 自然と共存・共生するバランスのとれたまちづくり。 佐倉市のすばらしいところは田園風景と自然の豊かさであり、これらを守ることが重要。	
		市民参加	官民一体となった施策づくりと市と市民との協働が重要。 有償ボランティアグループの創設。 市民講座やカレッジに参加して何でも相談できる友人づくりを働きかけることが重要。この施策のテーマを「心配事回収」としてはどうか。 単なる「緑と歴史のまち」ではなく、いつも挨拶が飛び交う「思いやりのまち」、「終の棲家として選ばれるまち」を目指すべき。
			行政
財政	税金の使途として優先順位を決めることが大切。		

●問3：「新しいまちづくりの方向性・方策、市民参加・協働のあり方」

分野・項目		主な意見(概要)
都市	まちづくり	佐倉市は分散居住区点在型都市であり、高齢者を意識した公共交通と身近な買い物施設が主要課題。
		限界集落化した分散型居住区の再生は、これらの「温存・改良・維持」が必要であり、「新規移入の子連れ若者世帯の誘致」と「住民相互扶助型コミュニティの構築」が重要。また、コミュニティビジネス型の福祉サービスや子ども手当、保育サービスの充実も必要となる。
		佐倉市は、旧佐倉市街と臼井・ユーカリが丘・志津に分かれ、鹿島川を挟んで別の都市があるような感じになっており、両サイドの市民の交流が必要。秋まつりや時代まつりも旧佐倉地区だけの伝統行事で市全体のイベントとなっていない。
		佐倉の特色や顔が見えない。そこで「生涯学習のまち」「あいさつ運動推進のまち」「シニアジュニアライン佐倉(子どもと大人の関わり方)」「一オー品一芸運動(人材バンク登録制度)」を提案する。
公共交通	京成電車の停車駅の改善(普通電車は佐倉止まり、志津以外は特急もすべて停車)	
	公共施設や買い物施設を連絡するワンコイン巡回バスの運行。	
	高齢化社会をにらみ、志津・臼井・根郷を結ぶバスの運行や自転車優先道路の整備。	
医療・福祉	地域福祉	佐倉市全域で救急時の個人情報伝達方法を明確にすべき。
教育・歴史・文化	子育て支援	子どもに税金(現金)が多く使われるのは、子どもがいない家庭からみると不公平である。ばらまき策は佐倉市にとってもきつのではないか。
産業	イベント	佐倉市にとって400年は、日蘭友好ではなく佐倉城・城下町開府である。市民不在のイベント企画では参加意識が低くなる。
	商業	従来型の駅前商店街振興の発想ではなく、高齢者の消費行動の変化を見据えた方策を講じる必要がある。 コミュニケーションがとれる対面販売の小売店の増加を望む。
環境・自然	環境	今後10年間は地球温暖化防止で市と市民が一致団結して取り組むべき。市が提示する温暖化防止策を市民が実行し、その成果を定期的に広報等で公表し、優秀者を「TOP100家」のような形で表彰するとよい。
	自然	緑地の保全が不十分。佐倉市の魅力は水と緑とそれらを保全する市民の努力である。
市民参加・協働・行財政	市民参加	財政
		財源の確保と無駄な出費の抑制が重要。
		NPOや市民団体が活動しやすい環境づくりとして資金面での支援が必要。市川市の「1%支援制度」のようなものを佐倉市でも検討すべき。
		財政が厳しい中では、民間の力を活用すべきである。
		任意団体やボランティアでは社会貢献活動が長続きしにくいので、NPO法人化を推奨し、助成すべきである。
		「まちづくり＝ひとづくり」なので市民参加や協働は大切。
		佐倉市民カレッジのメンバーは、意欲、能力、実行力とも優れており、この力を活用することで、従来人手不足でできなかった諸施策やサービスを実施すべき。
		高齢者を大切に扱い、高齢者の知恵・顔・金を活かす施策を望む。
		高齢者が「町の安全と住みやすさを確保」し、現役が「安心して住み休息」でき、子供が「イキイキと成長」できる環境づくりを優先すべき。
		定年退職した人が、自身の経験やノウハウを活かして、あるいは、新たに学んだスキルを活かして活躍できる場づくりを進めることが重要である。
市民人材バンクを創設し、市と市民の協働に意欲のある人々をメンバーとして登録し、各人の経験やノウハウを有効に活用する体制・仕組みを構築すべき。		
「市民力」をまちづくりに引き込む。住民自治や市民協働を条例化。		
市民参加・協働の中身を充実させるには、厳しい意見にこそ耳を傾けて大切にする必要がある。		
矢祭町(福島県)や阿久根町(鹿児島県)、秦阜村(長野県)など、個性的で行政主導の住民参加型まちづくりがよい。		

分野・項目		主な意見(概要)
市民参加 ・協働 ・行財政	市民参加	市民の自発的な参加が重要であり、それが得られるようなシステムを構築する必要がある。
		住民参加・住民自治の最小単位が自治会なので、自治会の単位をもっと大きくすれば活動も活発になる。
		行政には、施策や計画づくりに市民の意見を聞く制度はあるが、市民の能力・経験を上手に生かす具体的な方法にもっと工夫する必要がある。もっと市民を信頼し、市民力を行政に活かすことに傾注すべきである。
	市民意識	都市部への通勤者が多いので、そのような人とそうでない住民との意思疎通の機会を設け、町内活動を活性化させる必要がある。
	行政	地方経営力(企画力・構成力・実践力)が必要。
		佐倉市の将来を見据える基本構想にあつて期間が10年では短い。
計画のビジョンを明確にし、対象・数値・方法・期限の必要項目を具体的に提示すべき。行政・市民・専門家・産業従事者などから成る「計画会議」を組成し、目標や具体案を作成してとりまとめるのがよい。		
行政、民間、市民の協働や役割分担も明記しなくては、行政への依存体質から抜け出せない。財政に見合った計画を作成することが大事。将来の財政や人員とそれに伴う行政サービス及び民間委譲・委託のシナリオも描くべき。		
	行政の各種計画は、体裁は立派なものができるが、中味はどこの自治体とも変わる内容ではなく、具体的な内容や実施のプロセスは抽象論だけに終わっている。従来型の方法では、自治体運営のシホは望めない。	

●問4：「まちづくり懇談会の感想、その他市役所への要望など」

分野・項目		主な意見(概要)
プログラム	時間が短い 回数が少ない	グループ討議では時間が短く十分に意見交換できなかった。
		記述の仕方を一般論として書くか、個々の問題点を取り上げて具体的なケースで書くか、検討する必要がある。
		グループ内で話し合う時間が少なかったように思う。
		2時間の限られた時間では、活発な意見交換は出来なかったが、やらないよりはやった方がよい。 参加者募集ではPR不足…町内の掲示板や100円喫茶を利用して呼びかけるべき。
		回数が少ない。計画期間内の地区別将来人数予測、現構想に基づく進行管理・実施状況、地域を取り巻く近年の状況の変化などについて資料を示し、参加者が共通認識を持った上で会を進めるべき。
案内・募集	ゆとりがない	連絡から会合までの期間にゆとりをもたせ、事前に内容の案内も出すべき。
検討プロセス	前期の結果総括・今までの経緯	懇談会の検討プロセスが疑問である。 まず「現総合計画の達成見込みの分析と評価」を行うべき。これが次期総合計画のベースになるので、参加者に提示する必要がある。 次に大事なことは「次の総合計画期間中の財政状況のシュミレーション」。 次に、これらを踏まえて「次の総合計画期間中の予算配分(大枠)」の原案を作成する。この原案では「今後の方針(シナリオ)」を複数策定する。 懇談会で市民の意見を聞くのであれば、上記3つの資料(1現計画の分析&評価、2今後の財政状況、3今後の方針と予算配分(複数))を提示し、参加者の問題認識をはめ込むのが効果的な検討プロセスである。 単年度の予算策定に関する懇談会などであれば、今回のやり方でもありだと思うが、今後10年の計画策定に関する懇談会としてはあまりに不十分である。
		今まで(第1次～第3次)の計画策定から、まちがどのように変わってきたのか、その経緯の説明が必要である。 市民の声をまちづくりに反映させるには、このような懇談会を定期的に開催すべき。
		市民協働への懇談会の姿勢は理解・評価するが、進め方は以下の点で改善を要する。 前期の結果総括が一切なく、資料も見る時間がなかった(検討必要な資料だが)。事前に郵送するなりし、参加者に目を通してもらう配慮が必要。 準備側は懇談会までが大変かもしれないが、実りある会合のためには参加者への配慮が必要であり、再度考えてほしい。
		過去10年間の計画書は、どのような内容で、どのように実施し、現状どうであるという分析・検討をした上、今後どうすべきかを計画書の作り方も含めて市民のアイデアを聞くのがよいのではないだろうか。
	最初は市政の理念やコンセプトづくりが重要であり、テーマをもっと大きくすべき	今回の懇談会の目的・目標は、今後10年間の佐倉市の市政運営の理念やコンセプト作りの意見交換だと理解している。そうした目的の方法として、1回目の進め方は特に目的に疑問を持っている(テーマはもっと大きく、具体論を話すのは先である)。 将来の佐倉市について、「こうしたい」「すべきである」「しなければならない」という全市民が「住んで良かった、住み続けたい」そして「地域に誇りを持てる」そういった地域社会を、そのための計画を、市民全員で考えていこうというプロジェクトの始まりとして、ワークショップの進行に一考をお願いしたい。
まちづくり懇談会の位置づけ	単発でなく継続的に	懇談会の意図はよいが、単発ではなく、多くの市民に参加を呼びかけ、市政を市民に問う形で継続して開催すべき。 懇談会の場に市長・役員・市議会議員の出席も考慮すべき。
		初めて市民参加を意識した政策づくりを考えているようだが、市全体として本腰をいれて取り組むべき。
	計画づくりや見直しにも市民の声を	事前の資料配布、趣旨説明なしの懇談会で、限られた時間の中では十分な意見交換や発案は難しい。総合計画策定に市民の声を聞きましたという形だけのものに終わらせないため、実施計画に落とし込む作業や、その後のフォロー、見直し計画にも市民の声を反映させる処置を講じてはどうか。
	形式だけにしないための改善	市が提案をまとめて議会に通すステップとして、この懇談会を利用しているように思う。 良い意見を市民から吸い上げるには市民の選択が重要であり、難しいが今のやり方を改善する方法があるのではないかと。

(問 4 の続き)

分野・項目	主な意見(概要)
自分の意見を表明することができた	<p>今回の参加で、自分の考えの一部を提示できてよかった。どのような形でまとめられるのか結果が楽しみ。</p> <p>人数はちょうど良く、日ごろ考え・感じていたことを言えたように思う。雰囲気もわかりやすかった。</p> <p>市民が手軽にいろいろなことを学べる場を創出すべき。臼井にもカレッジがあるとよい。</p>
市民意識	<p>募集50名に対して参加者は10数名と少なく、市民のまちづくりへの意識が低いと感じた。</p>
総合計画の計画期間	<p>10年計画ではなく、時代の流れを考慮すると3年計画が望ましい。</p>

IV. 第2回検討結果「新しいまちづくりに向けた提案」

第2回のまちづくり懇談会（グループワーク）では、佐倉市の新しいまちづくりに向けた提案について、グループごとに検討してとりまとめ、発表していただいた。その発表の要旨を、会場・グループごとにまとめた。

1. グループワーク結果の発表・要旨

(1) 佐倉会場	場所：佐倉市役所社会福祉センター 日時：平成21年8月21日（金）19:00～21:00 参加者数：13名（A・B・Cの3グループ）
----------	--

Aグループ
提案1. 文化振興によるまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐倉市には、資産がある。浦安市や船橋市はいくらお金を持っていても城下町は買えない。それをいかに活用していくかを考えると、今までの対応はあまりにもお粗末である。再発見し、整理して、どう生かすか、相当のクリエイトが求められる。 ・ ミュージアムのあるまちも活用したい。これらをつなぐと面で売り出せる。 ・ もてなしの心を育むことが求められる。来街者に佐倉とはよいところと感じてもらい、もう一度来たいと思ってもらう、誰かを連れてきたいと思ってもらう。そうやってリピーターを増やしていく。 ・ 総合的に関連づけていくのが、戦略である。文化資産を生かしたまちづくりを進めていくべきである。
提案2. 協働によるまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐倉市の人口は、17万人でピークアウトするが、その中でも65歳以上人口が3万人から5万人に増える。 ・ その結果、人々の収入が減り、市としての収入も減る。一方、支出は増える。 ・ そこで、リタイアした人の力を活用していくことが、重要となる。 ・ 今までは提供する側が市で、市民は受ける側であったが、今後は、市民が提供する側にまわる必要が出てくる。 ・ シルバー世代、団塊の世代を活用していくことが求められる。それをコーディネートしていくのが市である。 ・ そういうモデル地域でありたい。 ・ シルバー世代の組織化が重要である。

Bグループ
提案1. 佐倉菜園都市の創造（農業体験による多様な交流）
<ul style="list-style-type: none">・ 佐倉市への来訪者が、ただ来て帰って終わりではなく、リピーターとなって再来訪するような仕組みが重要。そのような魅力を創造していく。・ 家庭菜園・市民農園などで農業観光に結びつけていく。そこに新旧住民の交流も生まれる。異世代交流にもつながっていく。農業の活性化にもなる。
提案2. 子どもからお年寄りまで誰もが大切にされるまち
<ul style="list-style-type: none">・ 子育てしやすい町、お年寄りも子供も人を人が大切にできる町。・ 子育て支援で、保育サービスなどを充実させる必要があるが、親もサービスの受け手で終わりでなく、親が、子育てが楽しく、成長していく町になればよい。子供の人権を大切にすることも重要。

Cグループ
提案1. 佐倉市の財産の活用
<ul style="list-style-type: none">・ 文化資産・文化施設、スポーツなど、観光に生かして魅力を発信していく。その際民間企業とのパートナーシップを図る。企業メセナと結びつけ、企業に協力してもらえないか。たとえば、順天堂記念館など。
提案2. 自然を活かす
<ul style="list-style-type: none">・ 印旛沼や川を生かした観光ルートを設定する。文化施設と豊かな自然、多様な生物、風光明媚なところを結びつける。たとえば、印旛沼で若者が参加できるいかだレースをしたらおもしろい。
提案3. 市民の力を活かす
<ul style="list-style-type: none">・ 市民の力（市民力）を事業に生かす工夫が市に足りない。いろいろな提案を具体的に書いてあるので是非参考にしてほしい。・ 目安箱のような仕組みを作って、常に市民の声が行政に反映できるように。市が手伝ってほしいことのボランティア募集。安心安全や道案内ボランティアの育成など。
提案4. メディアの戦略的な活用
<ul style="list-style-type: none">・ アドマチック天国や地井散歩で取り上げてもらったのにこれを観光につなげていない。フィルムコミッションなどでPRするのもよい。

(2) 臼井会場	場所：臼井南中学校図書室 日時：平成21年8月22日（土）9：30～11：30 参加者数：9名（A・Bの2グループ）
-----------------	--

Aグループ	
提案1. 自然と農業（花と農の恵みで多様な交流を展開）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐倉市の資源は何かと考えたとき、花、自然、スポーツ、花火が上げられる。これを全国にアピールしていく。 ・ 自然と農業では、佐倉は米を始め農産物がとれるが、これらをいかにアピールしていくかが重要。道の駅を整備して、農産物のコミュニティをつくってはどうか。これにあわせて、メイドイン佐倉バーベキュー祭りを創設し、市民や市外の人を巻き込み、自然の恵みをアピールしていく。 ・ 花によるアピールでは、桜、チューリップ、ラベンダー、ショウブ、草笛の丘のバラと、3月から花にまつわるイベント等をリレーしていくことができる。花リレーをアピールしていく。 	
提案2. 佐倉サミットの開催	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な考えを持っている人と意見を交わす場が必要であり、佐倉サミットの開催を提案したい。長期的な視野に立ち、年代別地区別に代表者を募集する。中高生から60・70代までが長期で参加し、佐倉にどういう問題があるのか、棚卸しをして洗い出す機会があってもよい。 ・ 市内は7つの地域に分けられる。この7つの地区から代表を呼んで、個々の問題を長期的、建設的に話し合う機会があってもよい。 	
提案3. 市民力の活用	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 団塊の世代は、一線を退いていてもスキルがある。それを地域に落とし込んでもらう。市にはそういう人たちが活躍する場を提供してもらう。 ・ 市の予算は減っていくので、市の施設や行政サービスを民間に移管・委譲していくとともに優秀な人たちを活用していく必要がある。指定管理者制度のように行政の経費を節減する仕組みがあるが、民間のノウハウや活力、サービスを活用することが重要。 ・ 市民主体のまちづくりを進める方法としてまちづくり協議会がある。この仕組みをうまく円滑に行くようにしていくことが求められる。シルバー世代の組織化も重要。 	

Bグループ
提案1. 佐倉の強みを活かしたまちづくり
<ul style="list-style-type: none">・強みを生かしたまちづくりを進めるべきである。その強みとは、住環境がよいこと、歴史があること、自然環境である。・まず、住環境が整備された、立派な住宅地であることをアピールし、歴史地区は徹底的に整備する。たとえば電線は地中化する。そしてまちのメインポイントとして、よそから人に来てもらう。そうすると自然にまちが活性化する。散歩道もいろいろありすぎて、よそから来たときにわかりにくい。大佐倉とか臼井城、印旛沼などにきちんと整備し、気楽に歩ける道としてよそにPRしていく必要がある。そういう積み重ねで、全体のまちのイメージをあげていくことが重要である。
提案2. みどりや農業が目に見えるまちづくり
<ul style="list-style-type: none">・市民農園があるが、広さは決まっており、期間も決まっていて使いづらい。自由に選べるようにしてほしい。・農地を豊かにしていく。また、全体的にみどりを残していく。・これらを、きれいに守るためには、人手やお金が必要である。そうすると、若い人が市内で働けるようになる。
3. 仲間づくり（市民同士の支え合い）
<ul style="list-style-type: none">・介護にならないように気をつけているが、いずれそのようになった場合、国や市が面倒をみってくれる仕組みがある。しかし、歩けるおばあさんで一人暮らしとなったときなど、そういう人たちがひとりぼっちにならないようにすることが大切である。・元気ならお金が使えるが、元気がなくなるとお医者さんにもいけなくなる。少し元気になったからお医者さんに行こうかということになる。精神的に落ち込んでしまう。楽しく暮らせる仲間づくりが必要。一人で困っている人が、相談したり、学べる場があれば安心できる。私の場合は、相談にのってと近所から来る。

(3) 志津会場	場所：志津コミュニティセンター 日時：平成21年8月22日（土）14:00～16:00 参加者数：17名（A・B・C・Dの4グループ）
-----------------	---

Aグループ	
提案1. 市民活動団体の活動に市民が参加しやすい仕組みづくり	
<ul style="list-style-type: none"> 市内でいろいろ活動している知識が豊富なグループを一つにまとめ、参加しやすくし、知識を利用しやすいようにする。まとめて管理するところをつくる必要がある。 	
提案2. 地球温暖化防止への取り組み	
<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化防止だけでなく、地域の空気、水、みどりをまず守りたい。その上で、地球温暖化防止については、そういうことをやっているグループを市で広報してもらったり、市民が参加しやすい環境作りが大切である。そういう活動をPRする施設も必要ではないか。また、リサイクルで不要品をほしい人にわたる仕組みができないか。ゴミ焼却場の余熱を使ったプールもほしい。 	
提案3. 道路・公共交通機関の改善	
<ul style="list-style-type: none"> 道路については、志津霊園問題の早期解決、道路工事の振動削減、路面の全面舗装の見直し、ブロック塀の生け垣化、バリアフリー化、大型車の進入禁止などを進める。 公共交通機関については、京成とJR間や成田新高速鉄道とのアクセスの改善及び京成線の臼井止まりの延伸などが望まれる。 	
提案4. 商業と観光の振興	
<ul style="list-style-type: none"> 商店街活性化では、地産地消を生かし、対面販売の店を増やすことが重要。 観光面では、市内観光のバスツアーを設けるとよい。ガイドは地元を知っているボランティアを活用する。 	

Bグループ	
提案1. 市民と行政の信頼関係の構築	
<ul style="list-style-type: none"> 行政からはいろいろ書類が出ているが7割の人は知らない。まちづくりを進めるためには、行政と市民の信頼関係が重要である。議会では改革委員会ができていますが、市民と話し合わせる義務を持たせることが重要である。いまは信頼関係ができていない。 	
提案2. 新旧住民の交流（市民意識の一体化）	
<ul style="list-style-type: none"> 鹿島川を挟んで新旧地区の結びつきがうすい。何か交流しないといけない。 旧地区では農業や商業をやっている産業振興が必要であるが、新住民はベッドタウンで安らぎとかみどりを求めている。 	
提案3. 産業振興と雇用の確保	
<ul style="list-style-type: none"> 働く場としてIT産業を振興したらどうか。佐倉は光ファイバーの太い基幹線が入っていないが、国の負担9割で導入が可能。そしてIT産業を盛んにすべきである。 観光イベント等での販売品（お菓子や野菜）に特徴がみられない。佐倉ならではの本物を販売することが大切。とってつけた変なものを見ると2度と人が来なくなる。 	
提案4. お年寄りの活用	
<ul style="list-style-type: none"> お年寄りに子どもたちの見守りなどのパトロール活動で活躍してもらおうとよい。子どもたちと触れ合うことで、お年寄り自身が元気をもらっている。 	

Cグループ
提案1. 市民参加のまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加のまちづくりが大前提である。平成18・19年頃、市民協働条例ができ、その中でまちづくり協議会が位置づけられた。これをベースにやっていくのが一番よい。そこにテーマを与えてやっていく。ここには自治会、社協、NPOなど、まちづくりに関わる団体が関わっていて、構成するすべての団体に問題解決に向けて取り組める。 ・ただし、この仕組みが今は小学校区単位でつくることとなっているが、ユーカリを例にとると、通学圏と生活圏は異なっていて、通学圏単位で問題解決を図るのは無理である。自治会や地区社協は長年生活圏に基づいて活動してきているので、そのエリアでまちづくり協議会をやっていくのがふさわしい。そこで地域の実態に合わせて住民主体でやると解決できる。
提案2. 観光資源の活用
<ul style="list-style-type: none"> ・観光資源の活用を進めていくべきである。印旛沼、歴博、武家屋敷などを一体管理して魅力のあるPRをしていく。そしてお金を落としてもらおう。印旛沼は、子供が泳げ、大人が釣りができるようにしたい。カミツキガメを駆除して安心して遊べるところとしたい。
Dグループ
提案1. 安心・安全のまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・医療・福祉は子供からお年寄りまで多世代が住み続けられる町を目指す。防犯・防災もキーワードとなる。これらは市民協働がないと図れない。医療は充実しているけど福祉は不安定要因が残っている。
提案2. 観光をキーワードに
<ul style="list-style-type: none"> ・印旛沼、歴史資源を生かす、農業、地場産業の育成、ベンチャー企業の誘致などを含め、財源確保のために。観光立市をキーワードに真剣に取り組むべきである。
提案3. 都市の再構築による市の一体感創出
<ul style="list-style-type: none"> ・地域格差の是正も課題である。鹿島川を挟んでこちら側の議論をしないといけない。教育も根付かせないといけない。格差是正のためには、市域全体を巡るワンコインバス等の交通整備が必要。 ・まちづくりにおいては都市計画がまちづくりそのものである。みどりを大切に、都市を再構築していく。きちんとやるのが大切である。
提案4. 市民参加型のまちづくり
<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加型のまちづくりを進める。市域の特性に応じたあるべき姿がある。それを市民参加で進める。

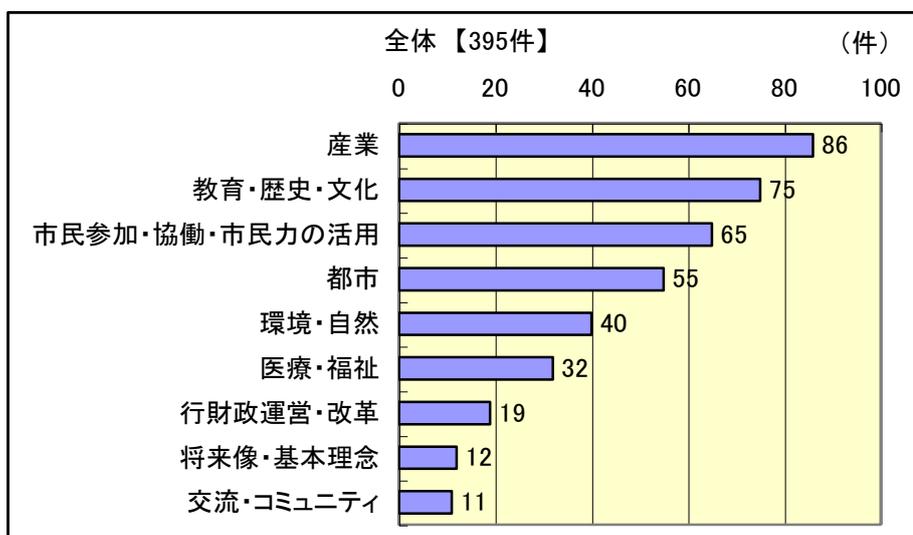
(4) 根郷会場	場所：根郷公民館 日時：平成21年8月23日（日）9：30～11：30 参加者数：8名（A・Bの2グループ）
-----------------	--

Aグループ	
提案1. 市民の力を活かす	
・ 団塊の世代の経験や知恵を活用していく。京成沿線（新市街地）と旧市街地の交流を進めていく。市民協働のためには挨拶運動から。	
提案2. 環境都市を目指す	
・ 印旛沼が一番汚い。環境によい石けんを100%が使うまちにする。それを市内外に宣伝していく。きれいになれば観光につながる。まずは、市の公共施設等で率先して使用し、市民にPRしていく。	
提案3. 観光振興と交流促進	
・ 大型バスが入れる道の駅みたいなものをつくり、お金を落としてもらおう。もてなしの心で受け入れていく態勢をつくる。チューリップ祭りをもっとアピールする。 ・ 桜のまちを目指す。鹿島川の土手に市民の協力で苗を植える。資金・労力は市民が、権利調整は市が行っていく。	
提案4. 安心して子ども産み育てることができるまち	
・ 佐倉市は、産婦人科が少ないので、子供を産みやすい環境とすることが必要。	

Bグループ	
提案1. 土地利用	
・ まちづくりの原点は土地利用になる。どれだけの面積があり、どれだけの人が住み、緑があり、商業・工業施設があるのか。理想を持って取り組まなければならない。	
提案2. 佐倉市の顔・シンボルづくり	
・ 佐倉はどんなところと聞かれたらどう答えるのか。私はさあと答える。シンボルをつくらなければいけない。高齢者が安心して住める、高齢者と子供の交流がある、生涯健康などいろいろあるが、まとめると生涯学習宣言都市がよい。 ・ 産業もまちの顔づくりには必要である。住民一人一人の顔が見える挨拶ロードをもうける。話題性のあるまち。テレビの活用も。産業では佐倉はこういうものが有名というものがない。道の駅のようなものに飾られPRできる産業おこしが必要である。	
提案3. 市民協働とコミュニティづくり	
・ 懇談会を定例化し、市民と行政が連携をとりながら、お隣同士とも仲良くやれる、市民協働とコミュニティづくりを進めていく。	

2. グループワーク結果の全体概要

- ・ 第1回まちづくり懇談会の結果（「課題・問題点」「いいところ」）を踏まえ、佐倉市の新しいまちづくりに関する意見・提案をいただいた。
- ・ その結果（グループワークでの提案件数）をみると、4会場（11グループ）全体で395件となった。
- ・ 内訳をみると、「産業」での意見・提案が86件と最も多かった。次いで「教育・歴史・文化」が75件、その他の中の「市民参加・協働・市民力の活用」が65件、「都市」が55件と続く。
- ・ 「医療・福祉」（32件）や「環境・自然」（40件）は他に比べ少なかった。



3. グループワーク結果の分野別の概要・まとめ

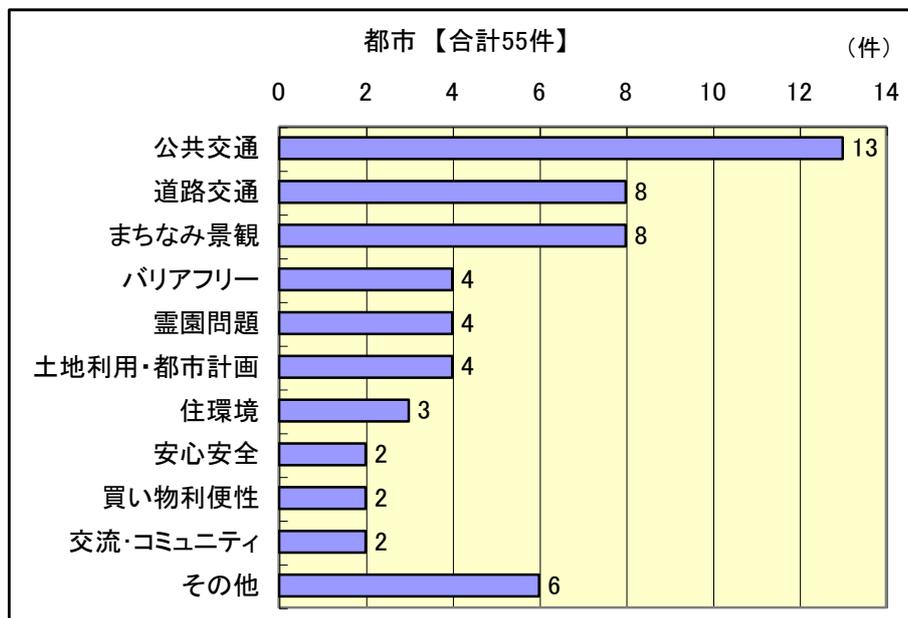
グループワークの検討結果の概要を分野別に整理してまとめた。

(1) 都市

- ・都市に関する意見・提案は全部で55件となった。
- ・内訳をみると、公共交通に関する意見・提案が13件と最も多く、次いで道路交通とまちなみ景観に関するものがそれぞれ8件であった。
- ・主な意見・提案は次のとおり

提案例(要旨)

- ①市内循環バス(ミニバス)の運行(生活・交流・観光のための市民の足)。
- ②道路に愛称を付け、親しみやすく、気楽に歩けるようにする。
- ③子供やお年寄りにやさしい、危険箇所の少ない、バリアフリーの道路整備。
- ④鹿島川や高崎川の土手に市民の力で桜の木を植樹する(桜のイメージを増幅)。
- ⑤歴史的な景観、城下町の風情を復活させ、まちづくりに活用する。
- ⑥自然・環境保全と都市開発のバランスがとれたまちづくり(佐倉の魅力は自然)。
- ⑦コンパクトシティ…市内で一通りの用事を済ませることができる機能が揃ったまち。

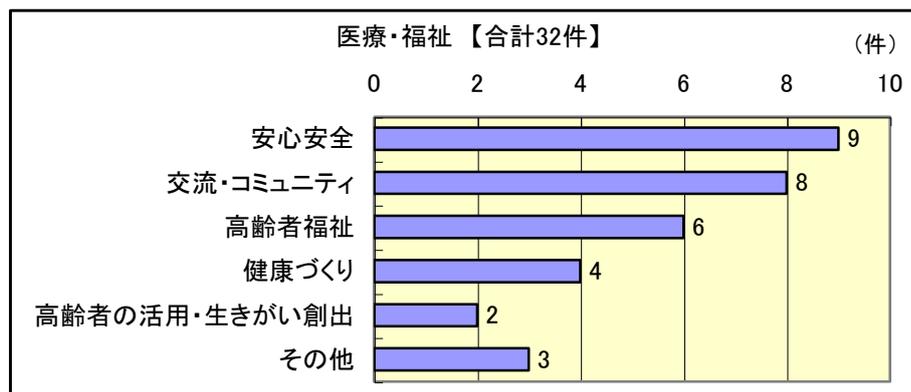


(2) 医療・福祉

- ・ 医療・福祉に関する意見・提案は全部で 32 件となった。
- ・ 内訳をみると、安心安全に関する意見・提案が 9 件と最も多く、次いで交流・コミュニティに関するものが 8 件、高齢者福祉に関するものが 6 件であった。
- ・ 主な意見・提案は次のとおり

提案例(要旨)

- ①子どもからお年寄り、障害を持った人にやさしいまち。
- ②キーワードは、生活の安全安心、食の安全安心、防犯・防災。
- ③高齢者を中心に、市民同士の支え合いや自身の心身の健康づくりには、外に出て人と交流することであり、そのための場所と機会づくりが重要。
- ④独居老人や障害を持った人を地域で支援する仕組みが必要。
- ⑤元気な高齢者を活用する場と機会を創出する→特に子どもと接することは高齢者自身の元気づくりにつながる。
- ⑥心身ともに健康で長生きできるまち。

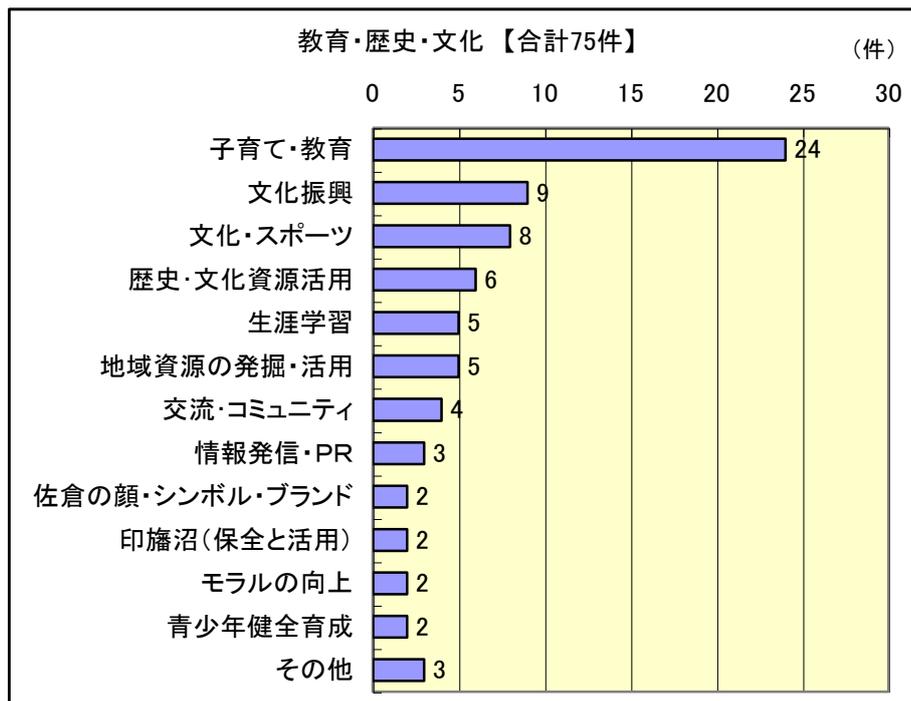


(3) 教育・歴史・文化

- ・ 教育・歴史・文化に関する意見・提案は全部で75件となった。
- ・ 内訳をみると、子育て・教育に関する意見・提案が24件と最も多く、次いで文化振興に関するものが9件、文化・スポーツに関するものが8件、歴史・文化資源活用に関するものが6件であった。
- ・ 主な意見・提案は次のとおり

提案例(要旨)

- ①すべての子どもがあたたかく育ちを見守られ、保護されるまち。すべての子どもの権利が守られる子ども人権条例の制定を目指す。
- ②子育てのしやすいまちに関わる提案。
 - 医療費の無料化、助成対象年齢の引き上げ。産婦人科の誘致。
 - 子どもが自然と触れ合う場と機会の創出。
 - 子ども同士、子どもと大人・お年寄りが触れ合い、交流する場と機会の創出。
 - 保育の充実、子どもを預ける場所づくり、子育てサポートセンターの設立。
- ③文化とスポーツの振興に関わる提案。
 - 市民が容易に文化活動に参加でき、文化に親しむことができるまち。
 - 有名アスリートをたくさん輩出しているので、それらと歴史、自然の豊かさを活かした、豊かな自然と歴史・文化とスポーツによるまちづくり。
- ④佐倉の顔・シンボル・ブランドづくりと情報発信・PRに関わる提案。
 - 佐倉市は歴史・文化資源な豊かな自然環境など、多くの地域資源を有しながら、それらがうまく活かされ、情報発信されていない。このことに具体的に取り組み、佐倉のイメージを確立し、市民が共有するとともに情報発信・PRすべき。



(4) 産業

- ・ 産業に関する意見・提案は全部で 86 件となった。
- ・ 内訳をみると、農業振興と街づくりに関する意見・提案が 20 件と最も多く、次いで観光振興に関するものが 17 件、商業振興に関するものが 12 件、佐倉の顔・シンボル・ブランドに関するものが 9 件などであった。
- ・ 主な意見・提案は次のとおり

提案例(要旨)

①農業振興と街づくりに関わる提案。

- 佐倉市に週末農業施設を整備して菜園都市のイメージを創出する。
- 農業を体験し学べる場と機会を創出し、市民同士、都市住民との交流を促す。
- 佐倉の産物のPRと直売及び地産地消の推進。

②観光振興に関わる提案。

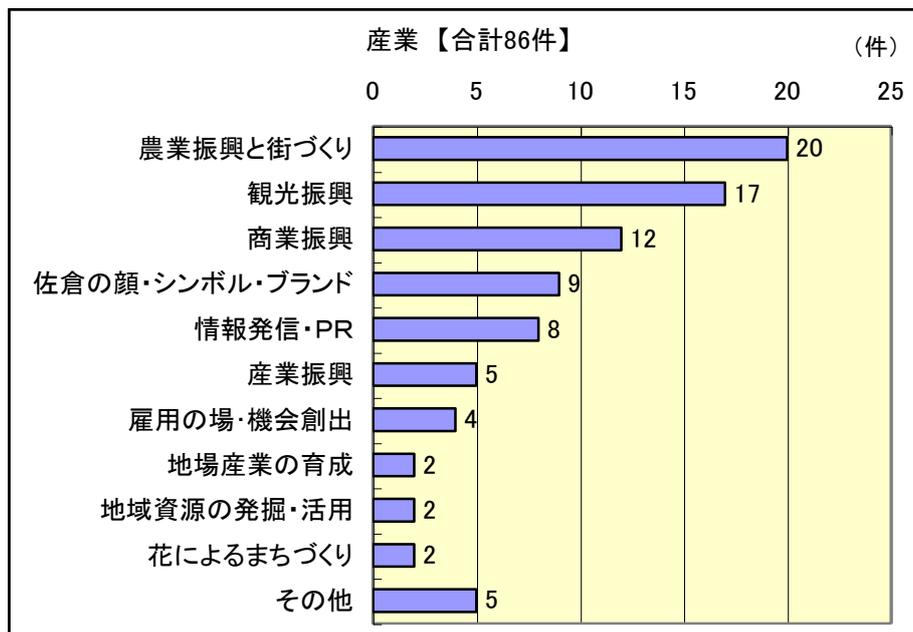
- 佐倉の魅力、強みである水と緑と歴史資源を最大限に活かし、都市住民等の観光客を誘客し、交流するとともにお金をおとしてもらう仕組みをつくる。
- 大型バスが止まって食事をし、土産物を購入できる場を整備する。
- 佐倉ならではの特産品の開発とおもてなしを含めた受入態勢を整える必要がある。

③商業振興に関わる提案。

- 魅力ある個店の創出と空き店舗活用による商店街の活性化。
- 大規模店との共存、地域密着型商売など、中小小売店が商売を継続できる仕組みづくり。

④佐倉の顔・シンボル・ブランドづくり。市民が共感・共有し、対外的に誇り、PRできるような、佐倉市の顔やシンボルをつくる必要がある。

⑤情報発信・PR。市の魅力を市民に知ってもらうが重要。そして、市と商工観光団体等とが連携し、マスメディアを活用し、市外に効果的に情報発信・PRをすべき。

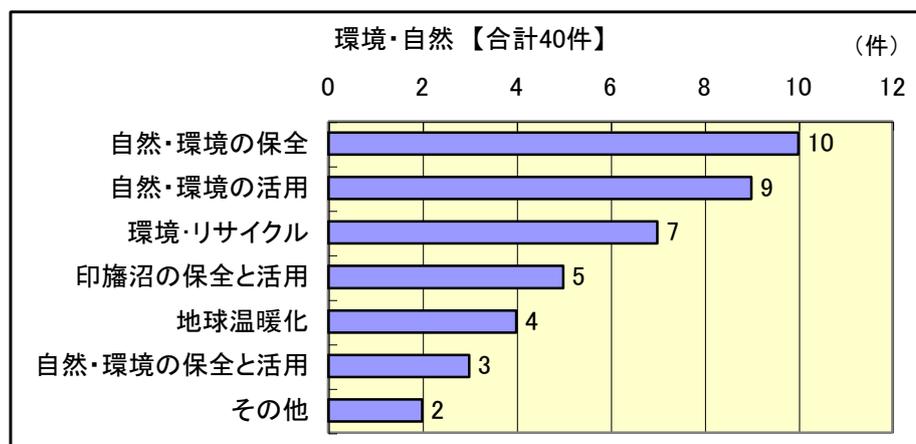


(5) 環境・自然

- ・ 環境・自然に関する意見・提案は全部で 40 件となった。
- ・ 内訳をみると、自然・環境の保全に関する意見・提案が 10 件と最も多く、次いで自然・環境の活用に関するものが 9 件、環境・リサイクルに関するものが 7 件など。
- ・ 主な意見・提案は次のとおり

提案例(要旨)

- ①自然・環境の保全面では、佐倉市の魅力は、おいしい水や豊かな緑であり、これらを守り継承していかなければならない。
- ②佐倉市の最大の魅力である豊かな自然を保全するとともに、市民の健康づくりや交流人口の誘致に活用すべき。
- ③印旛沼の自然に関しても、保全とともに市民の憩いや交流人口誘致のために活用すべき。
- ④ごみ問題や環境・リサイクルへの市民一人ひとりの意識の向上と取り組みが求められている。
- ⑤環境・リサイクルや温暖化防止への取り組みを徹底し、環境都市としての確固たる地位・イメージを構築すべき。



(6) その他

- ・その他は、全体で 107 件となり、内訳は、市民参加・協働・市民力の活用が 65 件、行財政運営・改革が 19 件、交流・コミュニティが 11 件、将来像・基本理念が 12 件であった。
- ・それぞれについて内容をみってみる。

1) 市民参加・協働・市民力の活用

- ・全体では 65 件であり、内訳は、市民参加の場・仕組みに関するものが 15 件、市民力の活用に関するものが 11 件、市民協働のあり方に関するものが 9 件などであった。

提案例(要旨)

①市民参加の場・仕組みに関する提案。

—市民が気軽に参加できる NPO 等の市民活動団体の育成・支援と、学校の空き教室の活用などの団体の活動の場の整備が必要。

②まちづくり懇談会の定例化。継続的な市と市民との対話・意見交換の場づくり。

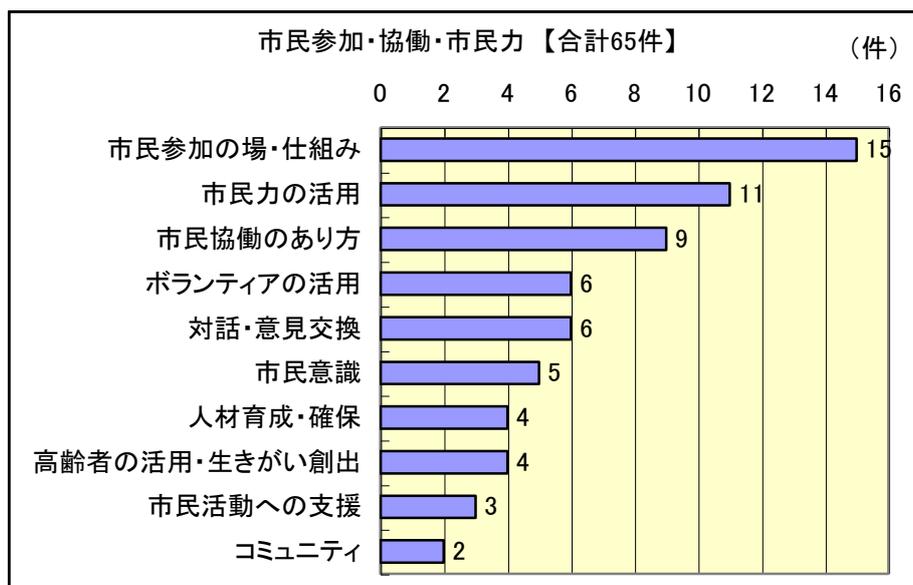
③市民力の活用に関する提案。

—やる気と能力を有する団塊の世代や高齢者の活躍の場と機会創出に注力し、「市民パワー活用」のモデル市になるべき。

—市民が主人公。市民の知恵を生かすシステムづくりや老人と市役所のスペシャリストが協働で事業のシステムづくりを行うべき。

④市民協働のあり方に関する提案。

—市民中心のまちづくり協議会のような体制をつくり、行政は主導でなくサポートを行い、ワンランク上の市民協働のまちづくり体制を目指すべき。

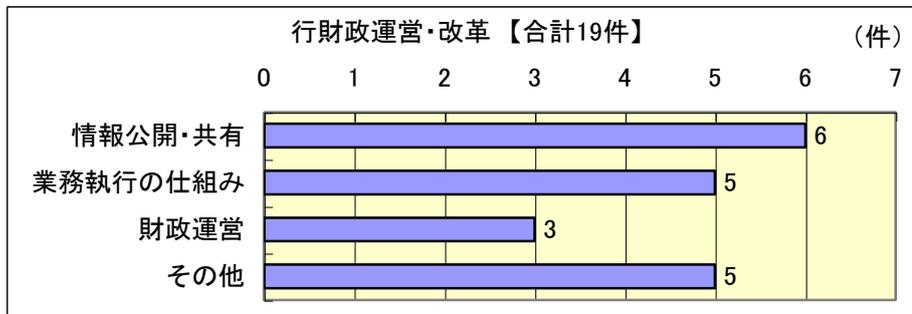


2) 行財政運営・改革

- ・全体では19件であり、内訳は、情報公開・共有に関するものが6件、業務執行の仕組みに関するものが5件、財政運営に関するものが3件などであった。

提案例(要旨)

- ①素敵なまちづくりには行政と市民の信頼関係が重要。その為にはガラス張りの情報公開が必要。ポイントは、見やすさとクイックレスポンス及び課題・施策・実現策・時期の明確化（いつまでにどのくらい）。
- ②行政サービスは徹底して民間委託すべき。但し、人権などに関わる部署については、期限ごとの変更は慎重にすべき。
- ③財政に見合った計画を立てるとともに、市で収入を得る活動を考え、それを改善策の費用に充てる。

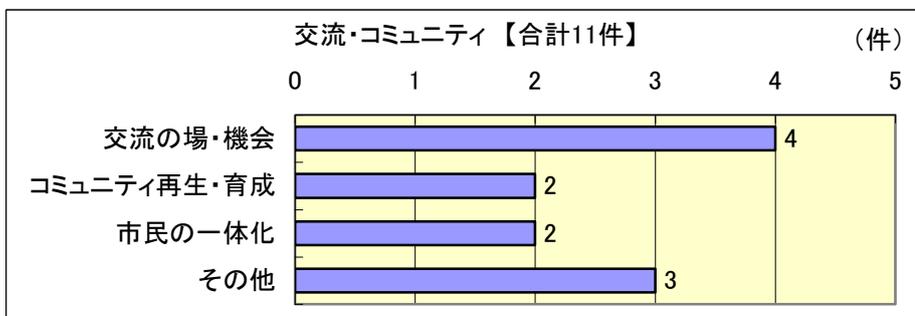


3) 交流・コミュニティ

- ・全体では11件であり、内訳は、交流の場・機会に関するものが4件、コミュニティの再生・育成と市民の一体化に関するものがそれぞれ2件などであった。

提案例(要旨)

- ①地域住民がいつでも集まって気軽に話しえる場が必要。
- ②臼井・ユウカリが丘・志津などの地域と旧佐倉市街の住民の交流のための仕掛け・仕組みづくり。



佐倉市第2回まちづくり懇談会 結果概要

分野・項目		主な意見(概要)
都市 【55】	公共交通 【13】	交通の利便性の改善JR、京成駅を經由し、市内を巡る路線の設定(100円均一)
		小型の路線バスで公共施設に行きやすい
		京成線の北(印旛、北総、成田)へのアクセス。バスを小型化して低燃料で運転し、路線を増加する
		京成電鉄と北総のアクセスが必要
		京成の本数下りの臼井止まりの佐倉まで延長
		市民の足、マイクロバスを巡回させてワンコインで自由に移動できるまちづくり
		交通機関の整備
		当市においても高齢化は進むので、市役所・病院・大手スーパーなどを結ぶミニバスを運行させて欲しい。できればどこでも手をあげれば乗車ができるもの
		市内を循環するワンコインバスなどの交通整備⇒交通計画の見直し
		生活、交流、観光のための市民の足として、公共交通(ミニバス)の整備⇒民間の力を活用して運行する
		1人暮らし高齢者などが増える中で、病院・通院など、非常に困っている。バス路線、送迎の問題
		佐倉の各地域間の交通の便をよくする(ワンコインバスの運行)
		シルバー世代の活用例:市民交通網の充実
	道路交通 【8】	交通網を詳細に。地球温暖化の防止の為に最も必要。人々の交流も盛んになる
		路面の全面舗装の見直し
		道路の整備が必要
		道路工事振動を少なくする
		路地内への大型車両の乗り入れ制限
		南北道路の拡張整備
	まちなみ景観 【8】	道路に愛称をつけ、親しみやすく気楽に歩けるようにする
		自転車用道路や、歩道が整備されていない
		鹿島川、高崎川の護岸整備、有効利用、遊歩道、花の木植樹など
		鹿島川の土手に桜の木を植える(資金・労力・維持管理は市民。調整は行政)
		佐倉に桜の木を植えていただきたい
		橋、街路灯、その他設置する場合、城下町の風情を考慮
バリアフリー 【4】	ブロック塀の、生垣への変更	
	歴史地区を整備する。電柱の撤去、まち並みの整備	
	整然として機能性がある、美しく清潔なまち	
	JR佐倉、京成佐倉駅前の整備、JR駅前→植樹 京成佐倉→風情のある駅前づくり	
霊園問題 【4】	バリアフリー歩行確保	
	通学路でかなり危険な所も多い。高齢者にもバリアフリーなど道路の整備が必要	
土地利用・都市計画 【3】	福祉 高齢者、障害者に優しいまちづくり まちのバリアフリー化、特に本町通り、坂道の対策	
	バリアフリーのまちと心のバリアフリーをつくれる意識づくりのまち	
住環境【3】	市内霊園⇒住宅地を開発した後のニーズとして	
	水道道路整備、志津霊園問題解決へ	
安心安全【2】	志津霊園問題早期解決(道路開通)	
	志津霊園の早期解決	
買い物利便性【2】	市域全体の都市計画の見直し⇒市街化調整区域と開発促進区域をより明確に	
	土地利用の基本方針 地方分権の時代になるとともに、佐倉市としてしっかりとの方針を打ち立てて欲しい。市街化区域、市街化調整区域	
交流・コミュニティ【2】	佐倉市東邦地域の豊かな農村地域、自然を残すためにも、土地開発はしない	
	旧団地内の地盤整備	
健康づくり	旧団地内の側溝の不具合が目立つ	
	強みを生かした徹底的な住環境の整備で高級住宅地	
文化振興	防災:災害弱者の支援として避難支援計画をつくる。 障害者、妊婦、乳幼児、外国人⇒要支援者	
	とにかく街灯を増やして欲しい。歩くのが怖いまちでは住民は不安ばかり	
コンパクトシティ	歩いて買物や散歩のできるまち	
	買物に便利のように歩道を工夫して欲しい。歩道に、個人宅に入るための坂があって歩きづらい	
情報発信・PR	鹿島川をはさんでの地域の人達の交流	
	佐倉市は鹿島川をはさんで別のまちのようになった理由が知りたい	
都市再生	散歩道の整備	
	図書館とコミュニティセンターを拡充して設置する。・志津図書館は早く・志津分館は交通が渋滞し、道路形態が危険なため	
若者に夢のあるまち	市内で一通りの事が用を成し、コンパクトシティとして機能するまち	
	まちの標識・看板の改善	
	限界集落化の住宅地の都市再生、三鷹市案	
	ともかく若者が夢を抱けるまちづくり、子育て支援、住居を安く提供するなど	

分野・項目		主な意見(概要)	
医療・福祉 【32】	安心安全 【9】	子育て、高齢者、障害者にやさしいまち 子どもからお年寄りまでが安心して住めるまち 安心がキーワードであり、不安は様々だが分類して課題を見つける 安全・安心:①生活環境の安全安心 ②食の安全安心 ③防犯防災 高齢者が安心してすごせるまち。社会とのつながりが感じられるように AEDの操作、救命法を学校の生徒たちにも学んでもらい、普及させる 医療が充実して子どもと大人の間関係を大切にできるように 独居老人が増加しており、近い将来地震が発生されるといわれているが、(老人も)安全で安心できる環境づくりが大切 災害時の見守りは個人情報があつかいがキーワード。取り組みを市民ができるようにするためルールを明確にして普及促進を	
		交流・コミュニティ 【8】	ひとりで引きこもっているお年寄りをなくすように、皆で声をかけられたらと思う。近所つきあいが密になってくるといいと思う イメージを生かす(公共機関でバリアフリーを徹底し、歩道の整備などを行う) 介護になるべくお世話にならないためには、まず元気、それには、家から外へ出ることだと思ふ。友人づくりを大切にしたい 介護や医療が必要になるとき、その対応は、自分の経験から始まる。相談、または学べる場、発信の場があると、心配が減る 高齢者がもっと気軽に集まれるような施設など、活動の場があれば交流が深まる 独居者などの孤独死を防止するために、町内会の資料づくりと見回り制度を確立して、日常の健康管理と生きがいづくりができるシステムをつくれればよい 遊休施設を生かした、老人・幼児の共同・共存寄り場づくり 高齢者と子どもの交流が盛んにできる環境づくり。そのために、幼老の館のような施設を充実させ、内容についても、きちんと計画し、実践する。そのことによって、働く主婦にも安心感を与えることになるのではないか
			高齢者福祉 【6】
	健康づくり 【4】		
		高齢者の活用・生きがい創出【2】	
	協働・市民参加		・社会福祉協議会と連携の強化 ・社協は行政と福祉活動を補完するものであり、人件費の補助や事業の一部委託だけではなく、幅広く協働するべきである。 ・福祉計画についても、一体的に取り組むことが望ましい
	施設有効利用	保育所、デイサービス、コミュニティセンター、複合施設、小学校との併存(利用)	
	情報発信・PR	せっかくできた地域包括支援センター、もっとPRが必要	

分野・項目	主な意見(概要)	
教育・歴史 ・文化 【75】	子どもたちには健やかな成長、親たちにも健やかな日々を 有能な一部の子供だけでなく、すべての子どもがあたたかく育ちを見守られ、保護さ れるまち。障害、外国人、一人親の家庭など、どんな子どもでも、子どもの権利をまも り、子ども人権条例の制定を目指す 子どもに関心を持つ人が増える 子どもが自然と触れ合う機会が多い 親育ちができるまち 保育つきの学習会など 放課後子どもが楽しくすごせる 子どもの医療費の無料化や、助成対象年齢の延長など、子育て世代に優しい市にす ると、若い世代が増えるのではないのでしょうか？(例:東京都江戸川区) 公園の遊具を増やしたり、公園で子どもまつりなどを増やせると、子どもが集まり、 地域の交流も深まるのではないだろうか？ 教育年齢層が住みやすく、向上心の持てる環境づくり⇒学校・公園・図書館の充実 皆が笑顔で暮らせるまちにしたい。気軽に子どもを預けられる場所をつくり、地域内コ ミュニケーションがとれるとよいと思う(自宅保育など) 子育てがしやすいまち。近所の付き合いを深めるような。核家族化も多いので、保育 を仕事のある人もない人も 子育てしやすい環境を整備する。子育てサポートセンターの設立など 現在ジャスコ内にある子育て支援の場のようなところが多くあると、若い母親が安心 できるのではないか 少子化:子育て支援、保育の充実、教育の充実 出生率がかなり低い。未来がとても心配、安心して産み育てる環境と経済的な援助を 子ども医療が就学前まで200円で助かるのですが、小学校6年までの拡大をしても らえたら助かります 子どもを産むのに産婦人科が少ない 学校と地域の連携が足りない。(現場は多忙) 学校内に地域担当の窓口を設けて欲しい 子どもが自然と接し、遊んで学べる環境に！ 少子高齢化への対応 大学・専門学校などの教育機関の誘致による若者流入の促進 大学・研究機関の誘致 PTAに依存する形ではなく、行政からのサポート、あるいは地域からのサポートが必要 ではないか	
	文化振興 【9】	文化を育むまちづくり 文化の振興によるまちづくり ミュージアムのあるまちづくり 良いところに光を当てる。図書館や美術館を設置 多彩な伝統のある高度な文化 佐倉市立美術館に小さなコーナーを設ける 本を読む人がいるまち。図書館から発信して 文教のまちというイメージがあるが、大型書店がないのが残念 伝統文化の継承 誰もが文化継承に参加できるようなまちづくり 緑のイメージをかためる「文化とスポーツのまち」 「文化とスポーツでまちを元気にしよう」というスローガンをつくる
	文化・スポーツ 【8】	読売巨人軍との業務提携 アスリートの育成(スポーツクラブの連携) アマチュアスポーツの育成 各種スポーツ大会の開催 歴史・自然のPRとスポーツ振興をからめたまちをめざす(各年齢層にとって有効) ジョギングマラソン大会の創設(市民ランナークラブでできる)
	歴史・文化資源活用 【6】	新しい文化の創造、歴史、伝統文化の検証と、伝承活動の推進 佐倉市の文化遺産の高い事は承知していますが、全市民の人に分かりやすい印刷 物(本など)を各家庭に配布すれば、市民のつながりも強化されるのではないか 観光や歴史を大切にして、国際都市としての機能を生かせるまちづくり 行事やイベントで歴史・文化を生かせるように 歴博と市の行政の連携協力。歴博の集客に佐倉市も協力する仕組み 歴史関係で、歴博を前面に(国との関係)
	生涯学習 【5】	市民カレッジのカリキュラム再検討 社会学識講座の開設 講演会の開催(1ヶ月に1テーマ) 生涯学習インストラクターや、生涯学習コーディネーターの養成 生涯学習宣言のまち。安心安全な住みよいまち

分野・項目		主な意見(概要)
教育・歴史・文化 【75】	地域資源の発掘・活用【5】	まちづくり資源の再発見 文化施設(メジャーなもの): 歴博、順天堂記念館、旧堀田邸、川村美術館 スポーツ(メジャーなもの): 長嶋、有森、高橋、雷電 長嶋記念館設立は長年の課題であるが、手短(手近)なところから始める 長嶋を知る人による「佐倉の長嶋」をまとめる
	交流・コミュニティ【4】	異世代交流 子どもと高齢者が触れ合えるような機会を。学校ボランティアにどんどん取り入れて顔が見えるまちとするため、住民一人ひとりの挨拶ロードを設ける 挨拶標語のスローガンを市民から募集する
	情報発信・PR【3】	ビジターセンターを設置、幅広く歴史・現状・将来像を知ってもらう 佐倉市に歴史的文化が多くあっても、知らない人が多い。ただあるというだけでは、観光のPRにならない 昔から色々な行事が各地にあるが残念ながら広く知られていないため、知らぬ間になくなっているものもある。共有財産として残し、知らせる方法が必要
	佐倉の顔・シンボル・ブランド【2】	誇れる佐倉、佐倉のシンボルの創造 ①国際交流(成田空港) ②歴史・文化のまち並みづくり ③産業・観光のまち 佐倉市民として誇れる何かを創造する(外向けでなく)
	印旛沼(保全と活用)【2】	印旛沼の活用について。子どもたちが気軽に遊べる場所づくりと大人たちが楽しめる雰囲気づくり 印旛の観光船ですが、市(行政)は観光に力を入れ、全国にPRされたらどうか。佐倉住民でも知らない人が多くいる。子どもたちに里山的な学びをするなど、自然が多くある佐倉なので利用又は活動するとよい
	モラルの向上【2】	佐倉は文化のまち、よいキャッチフレーズだけど、犬のウンチがあってはげんなり 住民のマナー向上 散歩時の犬のフンの始末
	青少年健全育成【2】	高校生の活用(自治会、地域社会への参加を学校行事に組み込む) 中学生、高校生をいろんな行事に役割をもたせて、どんどん頼む。非行防止にもつながる
	安心安全	福祉・子育て・都市・防犯 子育てには不安がいっぱい。両親も無事かどうか心配。治安、実際は悪いのでは?
	企業との連携	順天堂記念館のように文化施設を魅力的なものにするため、企業とのパートナーシップを図る
	人材育成	一才一品一芸運動を推進して、人材を発掘する 人材バンクの設置、まちの人材の活用 一才: その人の才能を生かす 一品: まちならではの特産品に対するこだわり 一芸: その人ならではの芸術を生かしたまちづくり

分野・項目		主な意見(概要)
産業 【86】	農業振興とまちづくり 【20】	<p>農村の多くは若者が家を出て高齢者世帯。若者が農業に携われるような施策を シルバー世代の活用例：農業資源の活用による「佐倉菜園」 佐倉市に週末農業施設をつくり、菜園都市のイメージとする 農業活性化、観光化、産直化(市民参加) 循環型、有機農業都市づくり 含む印旛沼 中高生と、農業体験ボランティアなどつながるように テベロッパー、JA経験者(農業)による事業化により、休耕畑・田の活性化 「やまといも」シリーズのスイーツ、レシピ作成 農業を学べるカリキュラム、学校のようなものをつくって、都会の人に来てもらう 自然と農業 佐倉の産物のPR、地産地消のPRをする。さくらの道の駅など場づくりが大事 産業・農業 もっと地産地消できるのでは。例えばお米で地域の味の比較などもやっ てみてはどうか 道の駅をつくって地産地消の奨励、PR 農業試験所の設立 農業がもっと発展して南部地域が活性化したらいいと思う 畑など借りて農作物をつくってみたいが、やり方があまりわからないので指導してくれ る人がいてくれると良いと思う 農業への取組み 市として、都内から農業をやりたい人を募集する 農業が目に見えるまち 現在農業をしている人の田植えや刈り入れを楽しませていた だいているが、多くの人が体験できるといい 家の庭できゅうり2本、トマト2本とかを育てている人はかなりいる。⇒家庭菜園、市民 農園への規模を広げてあげたい 農家、JA、市民、行政が連携し、農村地域の人達が活力を得ながら農業できる体制 を整える</p>
	観光振興 【17】	<p>佐倉の歴史と、水と、緑のまちとして、観光客を受け入れられるように整備する 外部集客対策、印旛沼周辺にて、春秋イベントの開催(定期的)京成電鉄周辺市町村 と共催 外部からの集客対策、佐倉の名産品づくり、多少の収入源の確保 都市の価値を高め、他県からも多くの人を訪れるまち 観光・文化は単発でなく、組み合わせ、連携を 市内めぐり観光バスツアー(土曜日曜)ガイド付き 道案内 外から来た人にわかりやすい表示が必要 観光、交流の促進と受入態勢づくり(お金を落としてもらう場、もてなしの心) もてなしの心、受け入れの態勢づくり観光で人を受け入れるならおもてなしの心や受 け入れ態勢は当然のこと 大型バスが入って、食事・土産品販売などできるところをつくるべき レジャー施設(アウトレット)メインになるような場所があるといいと思う 印旛沼のめぐみを生かす(産業・観光) チューリップ祭りなどあるが、駐車を考えると行きづらい面があるので、市外からの観 光用にも、バスが充実していると便利 歴博、市美術館、川村美術館など文化施設を有効に利用した観光プランを 国際都市成田とのタイアップ 歴博の有効活用 住居区の提供 1. 観光立国(市) 2. 交通整備PJ設立(有償) 3. 具体的なアイデア ①城址公園を核とする ②うすい⇄JR佐倉⇄京成佐倉 ③なのはな観光メニュー 追加・ハトバス 簡単な道案内ができるボランティアの育成(外から来る方は旧市街がわかりづらい) 大規模な店よりも、小売店が運営を続けられるような仕組みづくり 商業の改革 バザール型小売市民参加の食品生産販売 都市の価値を高めることで、シャッター通りをなくし、活性化する JRの路線は佐倉で分岐することもあるので、駅と連結したショッピングモール的なも のがあると、市外の方も利用してくれる活性化になるのではないのでしょうか？ 佐倉内需拡大運動！佐倉で買物をしよう！ 地産地消を実現したい、商売が下手 サービス精神が低い 対面販売か小売店の増加 大規模小売店と中小小売店の共存共栄を促進する⇒商業の活性化 商業施設の充実による市外購買の防止 魅力のある店の登録と育成 中心街の活用、空き店舗再利用。商工会議所などでは取り組んでいるが・・・ 遠くまで出かけなくても、地域内で必要なものがそろうといいなと思うので、昔のような 商店街が復活してほしいと思います</p>
	商業振興 【12】	<p>商業の改革 バザール型小売市民参加の食品生産販売 都市の価値を高めることで、シャッター通りをなくし、活性化する JRの路線は佐倉で分岐することもあるので、駅と連結したショッピングモール的なも のがあると、市外の方も利用してくれる活性化になるのではないのでしょうか？ 佐倉内需拡大運動！佐倉で買物をしよう！ 地産地消を実現したい、商売が下手 サービス精神が低い 対面販売か小売店の増加 大規模小売店と中小小売店の共存共栄を促進する⇒商業の活性化 商業施設の充実による市外購買の防止 魅力のある店の登録と育成 中心街の活用、空き店舗再利用。商工会議所などでは取り組んでいるが・・・ 遠くまで出かけなくても、地域内で必要なものがそろうといいなと思うので、昔のような 商店街が復活してほしいと思います</p>

分野・項目		主な意見(概要)
産業 【86】	佐倉の顔・シンボル・ブランド 【9】	佐倉ブランドの考察
		まちの活性化、産地直送、地産地消、住民の交流を図るための佐倉独自の〇〇市(朝市のようなもの)
		メイドイン佐倉 BBQ祭りでまちづくり
		市内には、畑・田作など広くされているが、他市のようなブランド品がない。農業のやる気を高めるためにも、市としてのブランド品づくりに取り組むべきだ
		佐倉ブランドをつくるため、佐倉農業の確立 米、野菜、果実、畜産物
		佐倉市の顔として、どんなまちにしたいかそのシンボル(旗)をまず設定する
		看板などでモデル道路を決めて行動にうつす
		話題性のあるまちづくり⇒シンボルづくりとPR活動(テレビ・WEB)
		<シンボル> 1. 家庭菜園/市民農園のまち 2. マラソンのまち
	情報発信・PR 【8】	基本的には、佐倉市はベッドタウンであると思う。交通の利便性が重要であり、光ケーブルなどのインフラ充実が必要である。9月までに申し込むと国の補助で全世帯にケーブルがはれるなど、政策を利用した上で、光通信や光テレビを利用した広報などもして欲しい。政治(市政)は情報公開がされてなく、まだまだである。後者(光通信・テレビ)は地元の産業につないでいくとよい(IT産業)
		最近メディアが佐倉市を取り上げて、PRしてくれるケースが増えてきたが、市・観光協会・商工会議所が、商店街などが連携してPR効果上がるようにするべきである。この際、イニシアチブをとる部署がなく、何もできていないのが現状である
		フィルムコミッションを組織、自然・歴史・・・etcをPRしていく
		花・自然・スポーツ・歴史・花火を用いて全国的にPRする
		最近、佐倉でも花火大会、時代まつりなど検討しているが、PRがまだまだ足りない
		現在放映中の「シンケンジャー」の撮影が佐倉で行われているので、市のPRに利用しては?
		工業団地の地区はわかるが、どのような企業があるのか近所の人でさえも知らないことがある
情報冊子づくり 行政だけでなく協働でつくる		
都市の価値を高めることで、高度な知識集約。産業、研究施設を誘致する		
産業振興 【5】	企業誘致の積極化、地域農業の活性化	
	市内の利便性の高い立地に、企業誘致⇒雇用の促進と税収アップ	
	成田空港に近いエリア特性を生かした国際関係などの誘致	
雇用の場・機会創出 【4】	ベンチャー企業の育成 高齢者と女性雇用の促進	
	地域雇用喚起、指定管理者制度の活用	
	働くもの同士のつながりができるように…。派遣村の状態が、身近で解決、または助け合いができるように	
地場産業の育成 【2】	働く人がふえるまち。税収が増えていくよう市長は考えて	
	周りの家庭をみても、市内に勤務は女性ばかり。目は市内にあらず。若い人が市内で働けるような職場を	
地域資源の発掘・活用 【2】	佐倉が誇れる産業の育成(農工商それぞれの分野で)	
	農業のほか、地場産業の育成⇒インキュベーションセンターの創成	
花によるまちづくり 【2】	まちの名所づくり、回遊式のまち いいものに光をあてつなげる	
	1. 観光立国(市) 2. 市民プランナー公募(有償) 3. 具体的なアイデア ①長嶋記憶に残るプラン ②女子マラソン栄光の歴史が実践できる場 ③蘭学道場 ④小江戸佐倉創設	
企業連携	花によるアピール 桜、チューリップ、ラベンダー、菖蒲、バラ・・・(花リレー)	
交流・コミュニティ	花と緑にあふれている年間を通じた花の祭典(祭事記)	
地産地消	地元企業の連携	
物流	地域住民と新規住民との交流推進⇒休耕田の菜園農園化など	
まちづくり手法	千産千消、ひいては市産市消ができるだけできるまち	
	成田空港、千葉港に近接した物流施設拠点としての機能施設	
	プロジェクト方式採用による事業推進	

分野・項目		主な意見(概要)
環境・自然	自然・環境の保全 【10】	美味しい地下水を守るため(飲み続けられるようにするため)緑地を保全していこう！これ以上開発しない！
		豊かな自然、多様な生物、健康的な空気
		佐倉は緑がきれいとか言うが、きれいにするには人手が必要。お金も必要。地主だけでは無理。
		公園などの草刈を市でやってくれているが、草で花粉症になるので、花粉の飛ばない・飛ぶ寸前に草刈をやってほしい
		空気の美しさに魅かれていて、この自然を保ち続けたい
		緑化運動の実施
	自然・環境の活用 【9】	緑を多くする方向での政策を考えて欲しい
		印旛沼の自然 ⇒手操川にカワセミがいます。絶対保全してもらいたい
		環境保護推進 先進市としての各種施策の展開(補助など)
		西部自然公園は早急に手をつけなくて、現状を保全することでよいのではないかと
		提案1 印旛沼、鹿島川、高崎川を生かした観光ルートをつくる
		提案2 市内にある歴史を感じさせる場所、緑(特に自然の残る坂路)などを連携させた散策ルートの整備
環境・自然 【40】	自然・環境の保全と活用 【3】	自然環境を生かした散歩コースをPRする。今の散歩会は多いので、外部の人達用の2、3のコースをPRする
		印旛沼いかだレースなどの若者が参加しやすいイベントを通じて自然を体感する
		自然の中で飛び回って遊べる場。近くの公園で木登りくらいは自由に、など
	印旛沼の保全と活用 【5】	地球温暖化防止の施設が目で見られる公園づくり
		草ぶえの丘の展開
		自然の豊かさを求めて都会から来る方の為に、お金を出して箱物をつくるのではなく、知恵を出して自然のあたたかさで迎えたい
	環境・リサイクル 【7】	歴史・自然のブラッシュアップとPRの改善
		自然保護 現状維持のために都市化との均衡のとれたまちづくり
		自然の保全と活用、印旛沼、河川、森林、里山、谷津、湧水
	地球温暖化 【4】	河川沿いの散歩をこれからも続けられるような対策が必要。自然の保護、万が一の事故対策
環境先進自治体 印旛沼の環境保全		
印旛沼の水質改善に本腰を入れる		
環境都市 市民参加	印旛沼浄化作戦の展開と、佐倉市のリーダーシップ	
	印旛沼をきれいにすることによって、佐倉のシンボルにしていく	
	素晴らしい印旛沼の自然(印旛沼のクリーン対策)	
	リサイクル ・家庭で排出した不用品の活用 ・一時集結場へ	
	市役所 ・集積物の確保 ・必要とする人への配布	
	ゴミ焼却炉が立派になり、二市一町での運営を機にプールをつくって欲しい。健康維持の為に有効	
	市内には緑が多いが、一方で宅地開発で緑がなくなったり、ゴミが捨てられることが多い。開発と廃品回収業については厳しい規制が必要	
	市の施設すべてで合成洗剤をやめて、環境に良いせっけん利用を徹底する	
	まず、市の施設はすべてせっけんにする⇒このことをPRする	
	ゴミがすてられていないまちを目指したい。解決策が見つからないが、何とかしたい	
	CO2削減が大きな問題だが、そのことが現実にとしたらよいのかPR	
	市役所の対応(環境)	
	・具体策を提示 ・イベントで説明 ・市民の対応状況を報告	
	・補助金の確保 ・実施効果により賞金 ・学校教育へ	
	環境(温暖化対策)	
	・各家庭でできることの確認 ・実施した結果の確認	
	地球温暖化は待ったなしの課題であり市民協働で話し合い、佐倉市独自の提案を出して欲しい。例えば、マイカー族の方に何曜日は自粛してもらおう、というような方法	
	環境都市、環境に優しいまちづくり⇒確固たるものにして国内外にPR	
	環境や自然に対して、市民が日常的にできることを明示する	

分野・項目		主な意見(概要)						
(その他)	市民参加の場・仕組み 【15】	市民参加(NPOなど)・高齢者の知識を集める・市民団体のまとめ・参加希望者の支援 自治体、老人会など、グループの横の連絡など 旧市民と新市民とが協力できる心の広さが求められる まちづくり協議会について、小学校単位で不可の場所がある。地域の実情に合った方法で、気軽に有効的なものにするべきだ 学校の空き室は、もっと市民(住民)に利用できるようにしたい 市民へ常設のたまり場を。・100円喫茶など、市民が運営する、・空き店舗の活用、・市民同士の支えあい、お互いの顔が見える信頼 市民活動を促進するための会議室が不足している ボランティア活動に気軽に参加できる場所・資金・仲間づくりを行う環境が不足 住民として参加しやすいシステムの構築 各委員会などの市民参加公募の際、人数制限するのではなく、可能な限り応募した市民は参加OKとする まちづくり懇談会の定例化 町自慢大会をやってみる 安心・安全生活のための市民全員参加の制度づくり 真の住民自治、条例化まちづくり まちづくり協議会の小学校区について ・地域の活性化や、生活課題の解決は、小学校区では対応が困難。・生活圏と通学圏、福祉と圏域との整合性を図るべき、・自治会、地区社協、商店会、企業などが協同して取り組むべきであり、一定規模のエリアが必要、・歴史や実際の経緯などから、地域の実情を合わせるべきだ						
		市民力の活用 【11】	佐倉市は「市民パワー活用」のモデルとなる市でありたい 市民の活力を十分生かせる行政側のあり方 市民力の活用 中高年、団塊世代が積極的に市政・地域活動に参加する 町内自治会を大きくし、行政の末端組織を活性化させる 市民人材バンク 市民カレッジの卒業生の活動 防犯・防災についても各自自治会への取り組みを、行政のほうから促す 地方自治 ―市民が主人公 ①市民の知恵を生かすシステムづくり、・老人と市役所のスペシャリストが協働で事業のシステムづくりを行う、・県、国の事業を活用した新たな事業化を探す 市民の力を生かす ・活用のしくみづくり ・意識の一体化 ・コミュニティづくり 市役所(NPOなど) ・窓口を決める ・活動状況を把握する ・新規参入に協力					
			市民参加・協働・市民力の活用 【65】	市民協働のあり方 【9】	市民協働という形はあるが、最後(仕上げ)のところ少し参加させるだけのように見受けられる。最初の話し合いからの参加が重要 ボランティアによる防犯活動が市全体で実施中であるが、自己負担、自己責任でやるよりも、やる気と活力を出すために、行政のバックアップが望まれる 市民と行政の連携 防犯・防災都市に向けた市民協働と企業協働 市役所と社協との関係 市役所は市民サービスのコーディネーター 市民中心のまちづくり協議会のような体制をつくり、行政は主導でなくサポートを行う ワンランク上の市民協働によるまちづくり 市民サービスの提供側と受領側のバランスの変化の認識			
					ボランティアの活用 【6】	ボランティア活動の活用 朝・夜しかお手伝いできない。パトロール、ボランティア参加の方々には感謝しながら、自分も参加したい、でもできない ボランティアグループの一覧をプリントして配布してほしい 有償ボランティアの組織、エコマネーなどを地域に考え、登録制により実施 ボランティアの活用が上手になされていない。社会福祉協議会が壁になっている ①有償ボランティア制度の策定 ②(人材バンクなど)やる気があれば半日でできる まちづくりへの意見、感想が届きやすい、出やすいまち		
						対話・意見交換 【6】	市民の意見を十分取り入れる制度の策定 目安箱のような仕組みをつくって、常に市民の声が行政に反映できるようにする 懇談会などで本心で話し合うことが必要。役所が一方的に説明するだけで本音が出ないことが多いと思う 議会改革委員会があるが、各議員が市民と話し合う義務を持たせることが必要 佐倉サミットの開催。年代別に各地区から代表者を定期的に募集する 思いやりのある常識に富む、マナーのよい親近感のある市民 ジェネレーション毎の役割意識のブラッシュアップ 若手の市民意識を高める 市民の誇りを共有できる 市民活動団体の成熟	
							市民意識 【5】	市民の誇りを共有できる 市民活動団体の成熟

分野・項目		主な意見(概要)
(その他) 市民参加・協働・市民力の活用 【65】	人材育成・確保 【4】	ここに、市民協働が必要なのではないか、経験豊富な方々の力が必要 ボランティアコーディネーターの育成、ボランティア活動を活発にするため 行政として手伝って欲しいボランティアのピックアップ募集 佐倉青年会議所 花火大会、相撲大会などに活躍している団体の活用
	高齢者の活用・生きがい創出 【4】	シルバー世代のサービス提供側への誘導と組織化 シルバー世代の活用例:市民情報(人材)ネットワークの主催 シルバー人材の活用、積極的に広報で応募する リタイヤ世代、団塊世代の活用のしくみづくり やる気と経験と知恵を持った人がたくさんいる。うまく引き出し、活用を 若者の一部にまちづくり活動に関心のある少数の人の支援(資金的) 市民活動団体の相乗効果を発揮するための支援システム
	市民活動への支援 【3】	まちづくり推進組織の創成、活動資金づくり(1%)
	コミュニティ 【2】	各自治会の地域コミュニティづくりが今後重要。行政でも取り組みを 住民相互扶助型コミュニティー醸成
(その他) 行財政運営・改革 【19】	情報公開・共有 【6】	情報を共有化したい。透明性のある市政を切望する 市民参加意識向上のため、議会・審議の内容のPRを市議会議員に徹底させる 素敵なまちづくりには行政と市民の信頼関係が重要。その為にはガラス張りの情報公開が必要 ①情報開示(見やすい・クイックレスポンス) ②事例:課題、施策、実現策、時期の明確化(いつまでにどのくらい) 市民への情報伝達方法(伝達に注力すべき)。防災無線もうまく活用すべき 行政関連の告知法の徹底
	業務執行の仕組み 【5】	行政の縦割り仕組みの改変 行政の業務実施仕組み/フローの見直し 行政管轄の施設 行政サービスは徹底して民間に移譲・委託 市より町への依存(分権)が強くなっているが、委託料を増やして欲しい 3年ごとに委託先変わる可能性。民間委託は慎重にして欲しい
	財政運営 【3】	市で収入源を得る活動を考える。収入を市の改善策として生かす 財政に見合った計画、無駄な助成金を減らす 安定した財源をもった住みよいまち
	行政評価	総合計画の一年毎の精査
	市民サービス見直し	市民サービス制度の見直し、再設計(シルバーセンター、福祉委員制度)
	相談	一人暮らしの女性や、女性の世帯主が増えている。相談できる場所ってあるのでしょうか。時々聞かれるのですが、答えられず困っています
	消費生活センターの活用	消費生活センターの活用:消費生活相談員がもっと地域に出て消費者問題を市民に啓発していく
	職員	佐倉市役所職員は、佐倉市出身・在籍
(その他) 交流・コミュニティ 【11】	交流の場・機会 【4】	2~3区ぐらいの集合場所が欲しい。いつでも集合できる場所 喫茶店が少なくなっているの、話ができる公共の場が欲しい。同時に駐車場も欲しい 新旧、住民などと区別せず、誰にもウェルカムなまち 自治体活動に参加しない人、ひとりこもる人、人とのつながりを
	市民の一体化 【2】	京成沿線(臼井、ユーカーが丘、志津)と旧佐倉市街の交流...市民の一体化 意識改革と、そのためのイベントなどの仕掛け、仕組みをつくるべき 臼井に住んでいるが、佐倉市街はもうよそのまちな感じ。身近にするための工夫が欲しい
	コミュニティ再生・育成 【2】	地域コミュニティの復活 地域コミュニティの育成 都市・農村部という区別なしに小学校区単位での住民のふれあいを確保
	高齢者の交流・活性化 挨拶	老人クラブが減少。60歳前の人も加入し、共に地域の中で活性化していくべき あいさつ運動を広げる。あかるく、いつでも、自分から先に、いつも言う
	隣人関係	佐倉のまちを好きになるためには、隣にたたかい人がいることが不可欠。隣人まつりのイベントをつくり、人が集えるまちにする
(その他) 将来像・基本理念 【12】	将来像と基本理念づくりが重要【3】	佐倉市の将来像の理念づくりが重要 方向性のコンセプトを創る 例:良貨は悪貨を駆逐する⇒佐倉の良いところ 佐倉市民憲章を図解でわかりやすくする
	活気、安定、安心 人と自然	活気のある、安定感・安心感のあるまち 人と人、自然と人がつながるまち
	平和	平和問題をしっかり考えるまち。いろんなグループが平和への思いや過去の記録に取り組んでいるが、市が主催することも必要
	市民協働、福祉	市民協働、企業協働による福祉のまちづくり ⇒中負担・中福祉をベースに
	多世代	世代が偏ることなく、多世代が常に住んでいるまち
	地域格差是正	地域格差の是正(地域特性を生かしたまちづくり)
	現役世代、安心 連携、安心	現役の人が安心して休息できる環境づくり 地域が連結して皆が安心して暮らせるまち
	もてなしの心	もてなしの心を育てるまちづくり

4. アンケート調査結果の概要

アンケートで寄せられた意見をカテゴリー別に要約・整理すると下表のとおり

(1) 佐倉市の将来像・まちづくりの方向・まちづくりの方策

① 都市

分類・項目	内容	
都市	まちづくり全般	<p>まちづくりの方向: 市民にとって活気ある魅力的なまちづくり。城下町のイメージを大切に、市外から人を呼び込む。高齢者・障害者に優しい安心して子育てができるまちづくり。</p> <p>活気ある、安定した、安心感のある人々の生活と平和な街: 地域経済の活性化、市民、特に弱者に対するセーフティーネットの強化、防災、防犯の体制強化。</p> <p>新しい高度な文化が創造され、国の内外から多くの人々が訪れてくれる街: 前述の各計画が成果を生めば、それが街の文化・風景・空気となり、人々の関心が高まり、この地を訪れ、住む人も増える。また、その人々が外国からの人であれば国際化が進む。</p> <p>成田空港に隣接、幕末に開国や医学の近代化に貢献した地理・歴史のある点から外国人に住みやすい街を整備する。 インターナショナルスクールの誘致、帰国子女受け入れと教育、外国人のための生活指導などに特色を打ち出す。</p> <p>佐倉市は自然環境が良く、歴史もあると知られた街というのは共通認識であるためこれを生かす。 徹底的に住環境がすばらしいまちとして売り出せばよい。歩道の整備、バス交通の整備も必要。高収入のサラリーマンに住みよい街としてPRすれば、市の財政改善になる。歴史地区を整備する。新町の電線を地中下へ整備し、山車が余裕を持って通れるようにする。また個性ある商店街をつくり、通年で観光客が訪れるようにする。財政にも役立つ。 観光客を集める街へ。本佐倉城や、臼井城など、江戸以前の歴史地区をPRする。</p>
	土地利用・都市計画	<p>整然とした美しい、清潔で機能的な街。しっかりして具体的な計画の策定が肝要。都市計画の専門家を中心にプロジェクトチームを組み長期展望で建設を進めていく。</p>
	住宅政策	<p>市民の高齢化:街の活性が失われないよう若い世代の住居促進の施策を実施。</p>
	公共交通	<p>交通の利便性を図る: ふる里広場、印旛沼周辺へのアクセス向上。江原台臨時駅の設置(イベント開催時)や、市内循環バス路線の充実。</p>
		<p>公共交通の充実: 既存のバス路線との関係でできないという声もあるが、検討して欲しい。また、酒々井の焼却場にプールを併設すれば安価に温水プールができる。バスで足を確保し、市民の健康向上と医療費の削減のために積極的に検討して欲しい。</p>
		<p>車を手放す高齢者世帯の足の確保のため、市内循環バス路線を拡充。小型バスや乗り合いタクシーの利便性に重点を置き、デマンドバスや無料バスも検討する。</p>
	道路交通	<p>交通の利便性を図る: 印旛沼自転車道から印旛沼公園に向かう遊歩道の設置。船戸大橋を通る道路は歩道がなく、自転車利用歩行者は危険で通れない。</p> <p>街の整備:歩行者が安心して通行できるよう、歩道の整備。公民館の整備・拡張し、公民館活動を活発化。道路工事の舗装方法を改良し、工事の低振動化と雨水の浸透がよい舗装にして、舗装の頻繁なやり直しをなくす。</p>
	駅前整備	<p>京成佐倉駅のイメージを一新する(表玄関なので): 駅舎を改装し、観光案内所、食べ処・休み処、土産物店をまとめて設置する。駅前広場の整備なども行う(城下町のイメージで休憩所設置や緑化)。</p>
	まちなみ景観	<p>市内に建築物をつくる場合、城下町のイメージを意識する。 市内の美化のために電柱の地中埋没を行う。</p>
	安心安全(治安)	<p>治安強化:警察の派出所増設、巡回強化。不法行為と迷惑行為防止のために条例を整備し、市民周知を徹底。また、市民のモラル向上のために自治会を通して市民同士が話し合う機会を設ける。</p>

② 医療・福祉

分類・項目	内容
医療・福祉	<p>安心安全</p> <p>高齢者層(現役引退者): 「安全で住みやすいまちづくり」持てる時間をこれにあてる。 市民が安心して楽しく暮らせる街。</p>
	<p>健康づくり</p> <p>「生涯健康宣言都市」を掲げて市民の健康寿命をのばす方法を検討(医療費削減)。</p>
	<p>介護保険</p> <p>独自の基準を設け、福祉に従事する人達の待遇を改善する。介護を受ける立場の人達への支援にもつながる。</p>
	<p>協働・市民参加・市民力の活用</p> <p>少子高齢化、子育て支援、独居老人支援のため、今後生徒数が減る小学校校舎に保育所、デイサービス、コミュニティセンターなど並存させる。小学校の管理も地元自治会、NPO法人などに委託し、弾力的な学校運営の仕組みづくりをする。</p> <p>在宅保育、駅前民間保育所、独居老人向け談話室について、既存の施設や個人宅を利用して、ボランティア団体、自治会、NPO法人へ呼びかける。制約条件は極力なくし、独自の規制緩和や補助・助成のための予算措置を講じる。</p> <p>高齢化・少子化(豊かな福祉の街): 介護システムの効率化、重点配分(健康老人への支援を有料化。財源の圧縮)。子育て、保育者の支援。</p> <p>「シニアジュニアライン構想」をもとに高齢者と子供が関われる関係をつくる(老人パワーの活用)。</p>

③ 教育・歴史・文化

分類・項目	内容
教育・歴史・文化	<p>子育て・教育</p> <p>高度な学術研究や教育機関・施設のある街: 環境的には素地が十分にあるので、インフラ整備をし、誘致を継続する。</p> <p>現役層: 「子づくり、子育てと、明日へのエネルギーを生み出し、蓄積できる住環境づくり」特に子づくり子育てに注力。</p> <p>子供層: 「未来の日本を支える人材となるよう研鑽をつむことに集中すること」これが可能な環境づくりを、高齢者層、現役層が支援する。</p> <p>保育所の拡充、老人施設の拡充は行政と民間ボランティアとの連携が図れるよう独自の条例や支援策を講じる、単に制約条件をあげるのではなく、何がどうすればできるのか、独自の発想で。</p>
	<p>歴史・文化</p> <p>文化遺産は未来の社会において、さらなる文明・文化の発展に役立つであろう「過去に創造された文化財」である。河合隼雄氏や福原義春氏は文化の力によって日本や地域を活性化させたが、佐倉市には社会への発進力の大きい文化遺産が数多い(歴史民俗博物館、順天堂記念館、城址公園、川村記念美術館など)。また、日本の発展に貢献した歴史の人物やスポーツ選手なども数多い。これだけの文化遺産がありながら、有機的に活用がなされていない。この文化遺産を中心に観光客を呼び寄せる施策が重要である。</p> <p>歴史と伝統文化を大切にし、保存・活用し後世へ伝える街: 有識者と市民が一体となって、文化活動を展開・継続。</p> <p>多くの人々が文化的価値を認める建物や施設を備えた街: 例えば、印旛沼の景色に溶け込める多目的音楽ホール、淡水生物博物館、市のシンボル佐倉城の復元など。これは県や国の協力を最大限に得る運動の展開と努力が必要。</p> <p>佐倉について学ぶ: 佐倉学、佐倉本、図書館にもそろっているので、若いうちから勉強する。</p> <p>ロマンあふれる佐倉: 遺跡と城と沼(広域行政の指向)。 佐倉おこし(まちなみ、歴史遺産の振興)。</p>
	<p>生涯学習</p> <p>生涯学習で街を元気に(一オ一品一芸運動の推進): 「生涯学習宣言都市」のスローガンを掲げ、小学校区域ごとに旗をあげる。それぞれの地区に分野別分科会をつくる(生涯学習センターの設立)。</p>

④ 産業

分類・項目	内容
産業振興	<p>質の良い工業製品、農畜産品、工芸品、食品を産出する地域： 優良な新商品開発努力のために、行政や専門家の指導・支援体制を確立。地産地消を進めるために直売店の拡充。</p> <p>街の活性化、産地直送、地産地消、住民の交流のために「〇〇市(朝市のような)」を特定の日(日にちに実施する(例：毎月10日の「金毘羅縁日」を利用拡大するなど)。 また、集客の場に「道の駅」や「ファーマーズマーケット」を設置し、農産物や佐倉の特産品を展示拡販する(行政、商店会、生産者、JA、商工会議所などの利害関係を離れた発想と行動力を)。⇒提供側ではなく、受け手の市民が企画、参加して実行部隊となる仕組みが必要。</p>
佐倉の顔・シンボル・ブランド	<p>ほこれる街:佐倉のシンボルについて考える。農業と観光、国際交流(ふるさと広場の拡充)。</p> <p>住みやすい街:自然、緑、ショッピング(佐倉産の食で佐倉ブランドをつくる。直売所、道の駅、農業の確立)。</p> <p>地場名産品をつくる(佐倉のお土産と言えるものが少ない)。</p> <p>幕末から明治にかけて日本の近代化に貢献、人材の輩出をしているので、佐倉独自の国際貢献ブランドを打ち出し、歴史観光政策を企画する。佐倉市内の高校に国際観光科や国際ボランティア科などを設置してはどうか。</p>
情報発信・PR	<p>PRの方法を考える： 京成電鉄は沿線PRや開催イベントが少ない。新勝寺のみで他の催事、施設のPRがほとんどないため、近隣都県への認知度が低い。JR主要駅や他私鉄主要駅に定期的にポスター提示するとよい(印旛沼周辺や印旛公園、キャンプ場、草ぶえの丘、武家屋敷、川村記念美術館、お祭りなど)。</p> <p>ハイテク・先端技術をもつ優良企業が多数活動する地域： プロジェクトチームをつくりニーズの調査、広報活動、インフラ整備を行い、企業進出のモチベーションを高める。</p>
産業 農業振興とまちづくり	<p>田舎のない都会人に、近くの田舎の提供の提案： トカイナカとして佐倉ユーカリが丘が雑誌コレカラの今月号で紹介されている。私は、第一回、第二回の懇談会両方で、佐倉に家庭菜園を提案したが、行政がイニシアチブを握ったピオトピア構想として欲しい。財政的に厳しい佐倉にとって、地元デベロッパー、JA、農家、地権者による佐倉クラインガルテン(市民農園)計画により、荒れた田畑、里山を活性し、商業的にも無から有への発想をして欲しい。栗源、八街、ユーカリと高齢者にむけた週末農業や、クラインガルテンのPRがなされています。佐倉も田舎などのキャッチコピーにより環境共生を目指せばよい。</p>
農業振興	<p>生産者支援： 佐倉の豊かな自然を支える農業者や山持ちの人が苦勞している。人件費、草刈代、生活費を出せないのは良くない。</p>
観光振興	<p>全国の人々が関心を寄せるハイレベルのイベントが開催される街： 音楽・舞踏・舞踊・演劇・祭りなど。優れた企画力、全市を上げて取り組める仕組みづくりがポイント。</p> <p>花と緑の佐倉アピールのため、点在する花の祭典を、年間通じて周遊できるようにマップカレンダーを作成。「花と緑の歳時記」の体系化で豊か自然を整備し情報発信する。(例：城址公園の梅林、桜祭り、菖蒲祭り、ふるさと広場チューリップ祭り・・・など)。</p> <p>観光立国(市)の創設： コンセプト1 良貨は悪貨をも改善する(佐倉の良いところを伸ばせば、悪いところもよくなる。) コンセプト2 驚き佐倉でランランラン(下記アイデア)。</p> <p>佐倉ミシュラン作成:特徴ある店の認定を育成(歴史、農業含む)。 佐倉の小江戸:堀田正睦、オランダを生かして城址公園を活用。</p>
文化・スポーツ	<p>長嶋グランド設置:ホームラン競争、驚き催し付き。 小出新道場:女子マラソン奮闘記ボード、ハード10キロコース設置など。 ジョギングコース、ウォーキングコース:子供、高齢者用でタイム申告制。JR佐倉～七井戸公園で折り返し。</p>
物流	<p>成田空港に近く千葉港との中間地点であるので、空陸の物流拠点としての機能や施設に着目してまちづくりを行う。</p>
雇用	<p>「生涯現役宣言都市」： 生涯にわたって住むために、何らかの仕事や役割を持てる地域とする(住民流出の防止)。</p>

⑤ 環境・自然

分類・項目		内容
環境・自然	自然・環境の保全と活用	豊かな自然に囲まれ、健康的な空気に包まれた地域: 佐倉はもともと自然に恵まれた地域であるので、整備して水と緑の豊かな自然環境を保全する。
		魅力ある田園都市:緑化運動を市内全域で進める。
		子供たちに自然が体感できる環境を整備: 子供たちと自然を共存させる知識を与えるため、「自然冒険の森公園」をつくり、環境育成の場とする。
	印旛沼	印旛沼の水質浄化に本腰をいれる: いつも題目のみで結果が伴っておらず、経費の無駄遣いである。
地球温暖化防止環境		地球温暖化防止に向けて向上。
		自然エネルギー環境の理解のため住環境のセミナー等を少人数でわかりやすく説明することを繰り返す。 市民に自然エネルギーの住環境への導入を理解してもらうため、「目に見える自然エネルギー公園」をつくり、自宅に導入した場合の効果が目でわかるよう表示。

⑥ その他

分類・項目		内容
その他	市民参加	地元民が動く: 観光ガイドや散策ルート紹介もあり、工夫もされているので、地元の人が動いて親類や友人に来てもらい、案内する(声をかけあっておでかけ)。
		グループ活動へ参加: 市民が皆どこかのグループやサークル、ボランティアに所属して、自分が楽しみ人に役立つ気持ちをもつ。与えて与えられる仲間づくり。
		佐倉のまちづくりで最も大切なことは、地域住民の「民力」を高めて、魅力的なまちづくりのために住民一人一人が地域のことをよく知ることである。 地域特有の地勢、歴史、文化、産業等を共通教養として学び、各住民がそれぞれの分野で促進するよう戦略立てればよい。そのために、生涯学習で地域共同体の「まちづくり分科会」を立ち上げ、住民それぞれの分野ごとに学べば、街への愛着がわき生涯住み続けたいという気持ちになる。この思いがあってこそまちづくりができる。
	交流・コミュニティ	「隣人まつり構想」で地域の閉塞感を払拭し、住民が希望をもって生きるための場をつくる。 助け合いグループ: 1986年に生協会員を母体とする助け合いグループ「エプロン」を立ち上げ、10年間代表をしていた。介護保険制度の開始と同時に解消してしまったが、気軽に助け合える組織が懐かしく、今もあって欲しいという声も聞いている。気軽に安価に頼めるグループとして再開したい。 皆がにこにこ声を掛け合う街: 少なくとも、町会内の道ですれちがった人には「頭を下げ」「声を出して挨拶」すれば、やがて立ち止まって会話のきっかけとなる。小中学生の登下校時にも声をかけ、このことが孤独感をなくし、会話が仲間意識をつくる。困ったときに支えあえる友人関係を構築。
市民意識	常識豊かで、生活態度の良い、人間味のある市民: 市民一人一人の自覚と意識の向上努力。市の広報と市民団体を中心とするキャンペーンの継続。	
行財政運営・改革	市の税込:優良企業の誘致、高級住宅地を造成し、高額所得者や富裕層の入居を促進。 財政再建: 無駄な予算を削減し、組織のスリム化、効率化を計る。 行政の重要度に応じ、行政のシフト代を軽減。 仕事の無駄、行政の整理、スクラップアンドビルドの徹底。	

(2) 提案実現のための課題、市民参加・協働のあり方

(2-1)

分類・項目	内容
市	<p>何よりも市の「やる気」と創意工夫と努力。市民パワーの有効活用。</p> <p>行政のスタッフとして市民参加: 調査、連絡、安全監視、情報収集、啓発活動。</p> <p>説明会・公聴会・パブリックコメント等による市民との対話の継続。</p>
	<p>市の広報紙の有効活用による市民との接点、パイプの拡大。</p> <p>どうも議会が機能していない気がする。市も議員に眠っていて欲しいと思っているのではないか。情報の徹底的な公開を希望する。</p>
	<p>既存施設の有効活用: アイデアにそってリニューアル。</p> <p>佐倉ゆかりの著名人の展示作成: 歴史上の知っている人や現在活躍している人がいれば、その土地に興味がわく。一堂に紹介できる記念館や、佐倉が登場する文学作品の文学館があればよい。</p> <p>また、長嶋記念館設立の実現のために、手近なところから手をつけるとうい。長嶋コーナーをどこか美術館や音楽ホールなどに設け、長嶋氏を知る人物に話を聞き「佐倉の長嶋」を刊行してはどうか。編集には郷土史に詳しい方に協力してもらってもよい。</p>
市民参加	<p>「市民参加の計画づくり」の姿勢は高く評価するため、今後の検討過程でも続けて欲しい。今後開催する検討会の内容を適宜公開し、検討会聴講、配布資料や議事録の公開、市民の意見受付などもして欲しい。また、検討過程を広報などで公開することで、市民の参加意識がより高まるのではないか。個別論の意見では計画の細部に適用することは難しいかもしれないが、「佐倉の今後10年のありかた」などに限定すればメリットがあるように思うので、検討して欲しい。</p> <p>実施計画は市民参加で諮問機関のような機構を置く。毎年、市政・事業の見直しと限られた財政の中で市民による優先順位付けが取り入れられる仕組みづくり。</p> <p>市民の知恵を生かすシステムづくり。</p> <p>前記の各年代層の役割分担の具体策は、各年代層で討議やアンケートを行い方向性を出してはどうか。また、子供たちに意見を出させる配慮も必要。</p> <p>市民モニターの活用。</p>
	<p>町内自治会の単位をもっと広域に大きく: 小規模であると少子高齢化や世帯数減少で前向きな活動が望めない。中志津自治会(地域法人に改組)程度の規模であれば法人化、独自事業が可能。行政に依存しない市民活動や地域活性化につながる。</p> <p>自治会の活性化と市の連帯。</p>
	<p>自治の確立 地方分権、自治の確立(市民が主人公)。</p>
	<p>まちづくり協議会 行政、専門家と市民による、企画・運用・評価のための「まちづくり委員会」設置。</p> <p>魅力的資源を生かしてない: 観光情報発信の担い手である商工観光課、文化課、都市公園課、商工会議所、観光協会、商店会の横のつながりが乏しく、縄張りに固執している。利用者の視点で情報発信・サービス提供をし、市民中心の「まちづくり協議会」のような企画立案機関をつくり、行政はサポートをする。</p> <p>現在設置されているまちづくり協議会で、何を議論しているのかが不明。ただ組織を設けるのではなく、システムと行政の考えが重要。</p>
	<p>市民団体 市民団体との緊密な連携。</p> <p>評判もよく結果も出ている「市民カレッジ」を真似て様々な分野にグループを増やす。「こうほう佐倉」には公民館の働きや催し物、勉強会などが載っているが、その中から生まれてくるグループを応援し支えて欲しい。元気な高齢者はますます若返り介護から遠ざかるだろう。</p> <p>市民カレッジでは卒業生中心に各種ボランティア活動が行われているが、この活動をまちづくりにつなげるために組織・システムが必要である。</p>
	<p>NPO NPOの活動をうまく利用する。</p>
	<p>高齢者の活用・生きがい創出 健康老人をどう生かすか・・・ボランティアだけでは不十分。老人グループをつくり、ソーシャルビジネスを立ち上げる。</p>
	<p>有償ボランティア 有能な市民の活用: 有償ボランティア制度策定。 人材の募集要綱策定(プランナーや評論家は不要。実現可能案を策定、実行できる人)。</p>

分類・項目		内容
市民参加	協働	<p>市役所スペシャリストと市民との協働システムをつくる。…県、国の事業を活用し、市民(できれば市民議会をも活用)参加の事業を研究する。</p> <p>二つの公園について。市、市民、団体など単独の発想と実証のみでは長続きしない。そこで、市が中心となりメンバーを市民から集めてルールを決めて協働作業を進める。1年目に計画と一部実施作業をすすめ、年齢などの構成を考慮した世話人会(サポーター)を発足する。2年目以降に公園を整備し、完成した施設から公開して、世話人会が遊ぶ環境整備や面倒をみる。</p>
	義務を果たす	<p>まちづくりに市民ができることは、第一には納税義務を果たして不法行為や迷惑行為を行わないよう、社会秩序をまもることである。医療や介護の面でも不必要な範囲まで迷惑はかけない。</p>
	市民融和	<p>市民同士の交流を図る: 毎年定期的にスポーツイベント(各地別対抗戦)を実施し、市民融和を図る。現在は市民融和の様子は全くない。</p>
民間	民間の活用	<p>JA、デベロッパーによる、クラインガルテン(市民農園)のコンペ募集を行う。休耕畑、田、里山へのアクセス、住宅の設計による構想。市は道路、上下水道の整備を可能とする提案。電通・博報堂に宣伝を要請し、週末農業、週末田舎暮らし、週末スポーツ合宿、週末趣味道場など、自然、交通、商業、住宅、指導者、行政支援、地域住民との共生、子供たちの楽園、など佐倉でできればと思う。</p>
		<p>文化資産活用のために企業と提携: メジャーな文化遺産がある一方で、魅力に欠けるところがある。たとえば順天堂記念館など、医学関係者以外にも近代医学の歴史や命の大切さなどを学ぶことができるような施設を検討して欲しい。「日本の近代医学の礎を築いた佐倉」としてアピールする方策をたててはどうか。企業の社会貢献のひとつで、メセナが活発になってきているが、最近では地方の文化資産を重視する例も増えているので、そういった企業に活用・保全を協力してもらえるよう提携する方法も検討してはどうか。</p>
		<p>資金がなくできないとは言わない: 国、県、京成電鉄、地元企業をうまく利用すること。乗客が増えれば京成も喜ぶ。</p>
		<p>観光ルートの創作と、なのはな観光・はとバスへの要請。 城址公園を核としてJR佐倉駅、京成佐倉駅どちらの利用でもよいルート。</p>
		<p>行政運営管理の施設やサービスを徹底して民間に委譲、委託: 経費削減と効率化、民間のノウハウ活用、サービス向上になる。人材も市の職員を大きく減らし、優秀な団塊世代(リタイヤ後)を活用する。現在の指定管理者制度を見直して範囲を拡大し、自由裁量の余地を大きくすれば良い。</p>

(3) まちづくり地区懇談会の感想・市役所への要望

分類・項目		内容
肯定	意見を述べられた	公募型のため、クレーマーさん達の参加が多かったように思う。会議のミスリードになってはと思い、第一回で発言し、抑えたつもり。今会議の設定はよく、多くの意見がまとめてみれてよかった。
		初めて参加しました。意見を述べる機会を与えられて幸せでした。
	手法	市民の考えをくみ上げる良い企画であったので、計画に活用して欲しい。それだけに、時間ももっとあればさらに良く、時間設定に無理があったように思う。 また、市民の集まりが市の目標を大幅に下回った原因を検証する必要があると思う。
		ちばぎんの人、企画政策課の人はさすがプロで、あつというまの2時間であり、とても楽しかった。友人が集まらず良い企画なのに残念だが、参加させていただき感謝しています。 1回、2回とも参加したが、主催者側の準備や司会者がよく、限られた時間のなかで上手くまとめられている。第一回の懇談会の結果は、環境・自然と教育・歴史・文化のみがよく、佐倉の土地柄があらわれている。歴博の場所はわかりにくいと言われるが、城はもと攻められにくいようにつくられており城跡に歴博をたてているのだから当然だ。このように佐倉という土地柄を理解した上で、まちづくりを進めなくてはいけない。
今後	感想はgood。要望は、①まちづくりに関してわかり易い情報開示(何をいつまでにどの程度やろうとしているのか)施策ごとにイラスト付のA4一枚でまとめる。 ②市民の「できる人」、「きれる人」、「やるぞの人」を参画させる。 今回の総合計画の10年は、国の施策とタイアップし、市としての「地球温暖化対策」への取り組みを打ち出して欲しい。国と比較した進捗を人の集まる場所に公表し、「昨日と昨日までのCo2削減量と目標値との差」などを出張所掲示板などで市内外にアピールし、市民の協力を得て欲しい。	
一部否定	参加人数	大変面白かったが、参加人数が少なすぎる。もう少し関心を持ってもらう努力が必要。
	手法	1. 初めての市民参加の基本計画に参加できて幸せ。 2. 企画政策課の求めるところが不明確。今までの計画を分析し、何を市民に求めるのかを明確に提起して欲しい。 3. KJ法も悪くないが、千葉銀のシステムなので市役所としての方針が知りたかった。 4. 市役所の問題点、課題、財政、行政の方向などもっと情報公開し、市民の参加がしやすく、討論できる提案が欲しい。
否定	手法	懇談会で感じたこと: ①テーマに併せた事前準備や資料配布: 今回のテーマで2回開催/各2時間では少なく、消化不良である。参加者の負担を軽減するとこの時間が精一杯かと思うが、その場合テーマにあわせた事前準備や資料配布が望ましい。たとえば、今回のテーマであれば「現総合計画の骨子」、「現総合計画の達成状況の概要」、「今後の10年間の環境変化」など。 ②テーマにあわせた検討方法の選択: 今回使用したKJ法は参加者の戸惑いも大きく、「粒が不ぞろい」「相互に矛盾」するなど不適切だったかと思う。参加者の関心の方向性が見出せた点は収穫であった。今回のテーマであれば、参加者はそれぞれ意見を持っているように見えたので、個々に意見を披露していただく方が有効ではなかったか。
	時間	1. 話し合う時間が短い。 2. 今までの総括がはっきりしていない。結果重視で活動内容の経緯が見えない。 3. 新しく計画立案のスタート時には、今回の参加者を集め、事前説明をして欲しい。 一部の市民であり、時間も不十分であるので市民の声をまとめたことにはならないと思いが、やらないよりはましである。 2日間計4時間で総合計画策定に当たっての市民の意見・考えヒアリングとなったのか疑問。このような機会を増やして計画策定後のフォローにも市民参加を促すべき。市の広報にも懇談会の様子や総合計画の進捗など逐一情報公開をしてもらいたい。市政や将来像への関心を市民から呼び起こすことが市民参加・協働につながる。

以上

